

あなたが輝く場所 中小企業



『はたらく』ことを真剣に考えている  
あなたに贈る、エール&メッセージ

中小企業で輝く 職業訓練で磨く



あなたを磨く場所 職業訓練

## あなたは何故、『はたらく』のですか？

### 人は何故『はたらく』のでしょうか？

言うまでもないことですが、世の中の多くの人が働いています。専業主婦の方が担う家事労働も含めれば、ほとんどの人が働いている、あるいは、しごとを探しているといつていいでしょう。

では何故、人ははたらくのでしょうか？

生活の糧を得るためでしょうか？確かに一定の収入がないとほとんどの人は生活していきません。でも、人は、生活の糧を得るためだけにはたらいっているのでしょうか？近所に住む大工さんは、「これが俺の建てたうちだ。色々注文が多くて苦勞したが、どうだ、俺の腕も大したもんだろう。」と胸を張りました。ですが、大工さんは「色々苦勞したが、儲かったよ（あるいは、儲からなかったよ）」とは言わなかったのです。



### 「生活の糧を得る」とは別のはたらく理由

大工さんの話からも分かるように、人が「はたらく」ということは、生活の糧を得ることと同じ位、大切な別の理由があるのだと思います。

皆さんにとって、「生活の糧を得る」と同じ位大切にしている「はたらく」理由は何ですか？

自分が成長するため、生きがい・やりがいを得るため、社会や地域に貢献するため、自分の好きなことをしごとにしたいなど・・・色々あると思います。

「はたらく」ことは、生きることです。あなたが重視したい「はたらく」ことの理由をいま一度、じっくりと考えてみてください。



### はたらくうえでの条件

しごと・会社を選ぶうえで、考えておかなければならないことは他にもあります。

例えば、ライフ・ワーク・バランスが実現できるか、教育制度は充実しているか、若いうちから責任あるしごとをまかせてもらえるか、職場の人間関係は良いかなど、人によって重視する条件は様々です。あなたは何を重視しますか？

### 自分がはたらきたい会社はどこにある？

東京には、24万社を超える企業があります。そして、そこで800万人を超える人々がはたらいています。

大企業、中小企業など、企業の規模はさまざま、業種、ビジネスの内容も多種多様です。あなたは、どんな企業をご存知ですか？Web、テレビ、新聞など様々な媒体でPRしている企業ならよくご存じでしょう。また、日常生活に欠かせない食品や日用品などの製造企業、ゲーム、インターネット・サービスなどのIT企業も多くご存じでしょう。でも、そうしたあなたが知っている企業は、大企業やマスコミで取り上げられることの多い企業を中心に、せいぜい100社程度でしょう。とすると、東京にある企業のうち0.04%しかご存じないことになります。

東京には、あなたの知らない企業が星の数ほどあるのです。その中には、あなたがはたらきたい会社がきっとあるはずですよ。



では、そうした会社をどのようにして見つけ出しますか？

### あなたが輝く場所 中小企業

東京には、24万社を超える企業がありますが、そのうちの約99%は中小企業です。つまり、東京にある企業のほとんどが中小企業なのです。

では、その中から、あなたのはたらかたい会社をどのようにして探し出せばいいのでしょうか。

そのためには、あなたにとって「生活の糧を得る」と同じ位大切にしたい「はたらく」理由と、はたらくうえでの条件を明確にすることです。

自分が成長するため、職場の人間関係が良い会社ではたらくことを第一に考えるのであれば、それをキーワードにハローワーク、飯田橋にある「東京しごとセンター」、民間人材紹介会社、Webなどを活用して探してみてください。

特に中小企業は、若いうちから責任あるしごとを任せてもらえ、色々な経験を積むことができ、あなたを職業人として、大きく成長させてくれるでしょう。また、経営者（社長）と社員の距離が近いため、あなたのアイデアをビジネス上の形にすることが比較的容易で、やりがいを体感できますし、経営者の背中を直接見ながら、会社の経営を直に学ぶこともできます。さらに顧客との距離が近いので、あなたの努力や頑張りに直接お客様から感謝の言葉を頂くことも多いでしょう。

社員が比較的少なく、社員全員が顔なじみというのも中小企業の特徴です。もし、人との触れ合いやコミュニケーションが好き、得意なら中小企業での暖かい人間関係が、あなたのしごとに対するやる気を高めてくれることでしょう。



一方で、企業の安定性の観点から、大企業への就職を選択する方がいます。ですが、今や大企業であっても、安定した経営を確保できているとは言いきれません。経営の統合や経営規模の縮小で、大規模なリストラを行っている大企業は実に多いのです。

### あなたを磨く場所 職業訓練

はたらかし始めることは、生活上の大きな変化です。そうした変化は、あなたを大きく成長させることでしょう。

一方で、大きな変化にいきなり飛び込むのは不安、準備期間を持ちたいと望む人も多いと思います。そうした人は、是非、職業訓練をお勧めします。職業訓練は、あなたがやりたいしごとに就職するために必要な技能や技術が学べ、職業人としての心構え、考え方、しごとに対する姿勢なども併せて学ぶことができるからです。

これまで、多くの人が職業訓練を経て、自分に自信を付けて就職し、自然な形で職業生活を始め、様々な企業で活躍しています。就職に不安がある方は、職業訓練で自分を磨くという選択肢も是非検討してみてください。

この冊子では、あなたが輝く場所として「中小企業」を、あなたを磨く場所として「職業訓練」を紹介しています。

この冊子が、『はたらく』ことを真剣に考えているあなたの心にとどくエール&メッセージになることを願っています。

# CONTENTS

**あなたは何故、『はたらく』のですか？ . . . . . 01**

**あなたが輝く場所 ひとつ、ひとつの 中小企業ストーリー . . . . . 04**

朝日印刷 株式会社 . . . . .	05
株式会社 アーブ . . . . .	07
株式会社 M I B 株式会社 遥 . . . . .	09
社会福祉法人不二健育会 特別養護老人ホーム ケアポート板橋 . . . . .	11
株式会社 匠栄房 . . . . .	13
株式会社 シントク . . . . .	15
株式会社 日精ピーアール . . . . .	17
日本特殊光学樹脂 株式会社 . . . . .	19
萩原印刷 株式会社 . . . . .	21
橋本電気 株式会社 . . . . .	23
株式会社 パースジャパン . . . . .	25
株式会社 フクイン . . . . .	27
株式会社 ミヤイボデー . . . . .	29
株式会社 ルケオ . . . . .	31

(50音順)

**あなたは何故、『職業訓練』するのですか？ . . . . . 33**

**あなたを磨く場所 ひとつ、ひとつの 職業訓練ストーリー . . . . . 34**

<b>中央・城北職業能力開発センター</b>	
OAシステム開発科 . . . . .	35
パソコングラフィック科 . . . . .	36
グラフィック印刷科 . . . . .	37
メディアプロモーション科 . . . . .	38
DTP科 . . . . .	39
介護サービス科 . . . . .	40
<b>高年齢者校</b>	
和装技術科 . . . . .	41
内装施工科 . . . . .	42
ビル管理科 . . . . .	43
ホテル・レストランサービス科 . . . . .	44
<b>板橋校</b>	
自動車車体整備科 . . . . .	45
I o Tシステム科 . . . . .	46
ネットワークプログラミング科 . . . . .	47
サイン・ディスプレイ科 . . . . .	48
機械加工科 . . . . .	49
プラスチック加工科 . . . . .	50
三次元CAD科 . . . . .	51
介護サービス科 . . . . .	52
<b>赤羽校</b>	
電気工事科 . . . . .	53
環境空調サービス科 . . . . .	54
測量設計科 . . . . .	55
Web設計科 . . . . .	56
建築CAD科 . . . . .	57
電気設備保全科 . . . . .	58

**あらためて、あなたは何故、『はたらく』のですか？ . . . . . 59**

**あらためて、あなたは何故、『職業訓練』するのですか？ . . . . . 60**

**最後に、あなたは何故、生きていくのですか？ . . . . . 61**

## あなたが輝く場所 ひとつ、ひとつの 中小企業ストーリー

中小企業は、あなたが輝く場所です。



- ・ 若いうちから責任あるしごとを任せてもらえ、色々な経験ができ、そうした経験が職業人として自分を大きく成長させてくれる
- ・ 自分の考えをビジネス上の形にすることが比較的容易でやりがいを体感できる
- ・ 経営者の背中を直接見ながら、会社の経営を直に学ぶことができる。



- ・ お客様との距離が近いので、自分の努力や頑張りに対して、直接お客様から感謝の言葉を掛けてもらえ、やる気がでる
- ・ 社員の多くが顔なじみで、温かい人間関係があり、それがしごとに対するやる気を高めてくれる など・・・



ここから先は、そうした魅力ある中小企業の若手社員と経営者の方々が、それぞれの会社の魅力を存分に語ってくれます。

さあ、中小企業の魅力に触れてみてください。きっと、「はたらく」ことに対する新しい発見があるでしょう。



朝日印刷 株式会社  
(印刷)

職業訓練を通して自分の軸をつくった。その軸の幅を広げて、大きな歯車になって色々な人の補助をする。それが今の目標。

ちゃんともものとして残るしごとがしたい。

朝日印刷株式会社は、富山県に本社を置き、医薬品・化粧品分野におけるパッケージ等の包材を印刷する事業を中心に、美・健康に関する分野で包装を核とした商品・サービスを提供しています。

今回お話しを伺った栗田さんは、制作会社の動画部門での勤務を経て、中央・城北職業能力開発センターのパソコングラフィック科で1年間、訓練をし、朝日印刷に就職、現在、同社東京支店ビル内のプリプレス部に勤務しています。

栗田さんは、転職と訓練を受けた理由について、大学在学中から、自然ともものを作りたいと思っていたそうで、「前職は制作会社で動画制作を行っていたんですけど、テレビ会社は分業制なので、『自分はこれができる』と提示しづらくて、ちゃんと自分の手に職を付けた仕事をしたいな、自分が個人として力を付けられる場所はないかと考えていた時、見学したパソコングラフィック科に、自分が一番やりたいことがあると直感しました。印刷に、すごく興味があったわけではなかったんですが、やるんだったら、ちゃんと紙媒体で残るものを作りたいという気持ちがあった。」といいます。ものを作るという意味では、テレビの制作も同じように思えますが、「テレビの仕事は、相手が画面の向こう側にいて反応が得づらい、



プリプレス部 DTP課 栗田 真吾さん

僕が目の当たりにすることは無い、それは自分の中でちょっと違うかなと思って。」とのこと。

このことについて、プリプレス部長の坂田さんは「ドラッグストアに行けば、うちの商品に包まれた薬や化粧品がたくさん売られているので、そういった意味では、栗田くんたちもやりがいを感じるのではないかな。」とのこと。パッケージに「朝日印刷が製作しました」とは表示されませんが、私たちも、日々、栗田さんたちが作ったパッケージを見ているということです。それのことを考えると、印刷のしごとはすごいものだと感じる事が出来るのではないのでしょうか。

ライフ・ワークバランス実現のその先に

そして、栗田さんが転職したもうひとつの大事な理由は「自分の仕事をちゃんとしつつ、生活は整えて、自分の好きな時間の中で、ものを作りたい、ちゃんと趣味の時間と仕事の時間を分けてできるような仕事に就ければいいな、と思っていました。」「仕事は仕事としてもものづくりに携わる仕事をしよう。それで自分の気持ちを処理するために、趣味もちゃんとやっけて行こうという気持ちで、今の会社に就職しました。」とのこと。

実際に就職してみて「今は、ちゃんと始まるの時間と終わりの時間が決まっていて、カレンダー通りに休みもある仕事なので『じゃあこの時間はこうしよう』という計画が立てられるのはすごく幸せなことだなと思います。」といいます。

坂田部長は「(同社の) 一番の強みは品質力だと思う。確実なものを納めさせていただくため、時には、多少納期がかかることも許容をさせていただいている。ただそれがいつまでも許されるかというと、難しい時代に来ている。その対応に、どう効率化していくかで、今色々悩んでいると

ころですね。なので、栗田くんなど若い人にはどんどんスキルを上げてもらって、短納期への対応が可能な体制、あるいは休みがとりやすいように、もしくは、急に何かがあっても穴埋めが出来るような体制などについて、色々と取り組んでいますけど、なかなか難しいですね。」といます。



### 多能工とコミュニケーションスキル

職業訓練、今の会社での経験を通じたご自身の変化(成長)について、栗田さんは「訓練前は『自分に何が出来るのかな』とか『何も手に職を持ってない状態だな』と思っていたんですけども、今は『自分はこういう事ができます、自分は会社でこういうことをやってきました、だからこういう事ができます』とちゃんとと言える状態になったなど、そこが一番大きな違いだと思います。」といます。自分はこういう事ができるという自覚は自分の「軸」が大きくなってきているということでしょう。「自分の軸を作るために、訓練や仕事に色々と手助けしていただいた。」「その軸の幅を広げていって、大きな歯車になって、色々な人の補助ができるようになるのが、今後の目標になっていくと思います。」と栗田さん。

今、時代や技術の変化に対し、多能工の育成が求められていますが、栗田さんの言うように単なる多能工ではなく自分の軸を持ち、他のしごとに対応できる人が求められていると感じました。

部長の坂田さんは「栗田くんなど、多能工では満足できなくて、複数のメンバーを同じベクトルに向かせて(マネジメントして)、色々な仕事を取ってきて中に取り込み、新しいものづくりを始

めるといったことをやりたいと思っている人がいると思う。そういう人には、周りの人をどううまく動かせるか、そういった資質なども見極めながら、適材適所で活躍してもらいたいなど。」近い将来を見据えながら考えているそうです。

そういったしごとに不可欠な能力の一つに、コミュニケーションスキルがあります。栗田さんは「訓練では、先生方がよく『傾聴』という言葉が使われていました。相手の言葉をちゃんと受けとめて、それを受け入れて、理解して、返すということ大切にしないと、それを今でも心に留めて仕事をしています。」といます。そして今の職場では「みなさん距離感が近くて、仕事はしっかりしてるんですけど、『大丈夫?』って聞いてサポートしてくれて、例えば出来ないことがあっても『なんで出来ない』って頭ごなしに言われることがないので、僕は色々な人に大切にされているという実感を得ながら仕事をしています。」

訓練の中でコミュニケーションの大切さを理解した栗田さん、そしてそれを大切にする会社、この両者が歯車としてうまくかみ合った時、また一歩、栗田さんも会社も成長していくのでしょう。



プリプレス部長 坂田 哲也さん

#### 朝日印刷 株式会社

業 種 印刷

設 立 1946年5月

資本金 22億2,100万円(2018年3月末)

代表者 代表取締役社長 濱 尚

社員数 1,004名(2018年3月末)

所在地 東京支店: 台東区元浅草4-7-11

電 話 03-3845-1177

<http://www.asahi-pp.co.jp/>



株式会社アープ  
(ソフトウェア開発)

**将来の結婚・出産を考え、手に職をと！IT  
業界へ転職。未経験でも本人のやる気と会  
社の支援で、確実に成長・定着する。**

### 全くの未経験です。

株式会社アープは、クラウド・Web・業務系・医療系を中心に、自社オリジナルのパッケージソフトの開発や、ソフトウェアの委託開発を手掛ける会社です。最近ではディープラーニングを活用したAIの研究開発にも力を入れています。

今回お話を伺った菊田さんは、ウェディング業界の営業職から、同社に転職して間もなく2年、転職前には、プログラミングなどの経験は全くなかったそうです。その菊田さんが、あえてIT業界に飛び込んだ理由は「結婚とか出産とか将来を見据えた時、退職後、仕事に復帰することを考えたら、やっぱり自分の手に職を付けたいなというのがありました。まだ20歳代なので今かなと思って、転職しました。」とのこと。とはいえ全く未経験の、しかもIT技術を習得するのは大変だったことは容易に想像できます。「そうですね。大変でした。元から、パソコンは好きで、学生の頃はブログとか自分で作っていたので、イけるかなと思って入社したんですけど、全然違っていたので、最初の壁は高かったですね。」とのこと。

### 阿部社長との出会い

IT関係の企業は、世の中に数多くあります。



先端技術開発事業部 菊田 香寿美さん

菊田さんに、その中からアープを選んだ理由を伺うと、阿部社長との出会いが大きかったようですが、この言い方は少し違っているかも知れません。なぜなら、アープの社員の方は、皆、「社長」ではなく「阿部さん」と呼んでいるからです。

その阿部さんと菊田さんが最初に会ったのは、第一次面接の時、最初からいきなり社長が現れたことに菊田さんは「本当、最初はびっくりしたんですけど、『えっ社長？』みたいな感じで。それくらい社長と社員が近いんだなと思って、すごい安心しました。」そして、会社のトップから直接「今、会社はどういうことを目標としているのか、会社は将来どうなっていきたいのかを最初に聞いた」こと、「IT業界は他社との協力で開発を行うことが多いと聞いていたんですが、自社独自の商品を出していきたいということを強く言っていたので、商品開発に自分も一緒に携われたらいいなと思って入社を決めました。」とのこと。

採用の当初から経営者が直接関わる理由について、阿部さんからは「採用は、その人の人生のかなりの部分を左右します。少なくともアープに入って一人前になり、アープを辞めた後もちろんとやっていけるだけの力は付けてもらわないと、採用した責任が果たせない。あと、企業理念を最初に話すのは、入社後に『こんなはずではなかった』ということのないように、世の中、色んな会社があるので、『うちはこういう会社です』とハッキリ言って、それで良かったら是非どうぞという思いからです。」と同社の誠実な経営を感じるお話がありました。

### 本人の努力、採用の眼力、育成の経験

IT未経験の菊田さんでしたが、「入社した後、研修期間が約半年で、そこから会社の商品を作るところまでに1年かかりました。」とのこと。



その後は、営業支援ツールとして顧客管理などいくつかのアプリケーションの開発に携わってきたそうです。そして、今は、他の2人の社員とともに取引先に派遣され、派遣先のシステム構築に携わっています。

全くの素人だった菊田さんが、僅か1年で自社商品の開発を担えるようになったのは、菊田さん本人の努力はもちろんですが、「絶対にプログラミングの技術を自分で身に付けようっていう迫力というか気力というか、それを非常に強く感じるとともに、菊田さんには、理論立てて道筋を作って考えを進められる」資質があることを見極めた阿部さんの採用の眼力、そして「今までも、全くコンピュータの経験のない方を採用し、育ててきた。」という同社の人材育成における経験の蓄積があったからに他なりません。



### 温かい会社・やさしい会社

菊田さんが採用の時から会社に対して強く感じているのは、アットホームな雰囲気と働きやすさだといいます。「仕事の中で本当に困っていたら、誰かが助けていて、協力のし合いがすごく強い、驚がりの深い会社だと思います。声に出さなくても、先輩方が気にかけて、見ていてくれる。」そうです。また「働き方に対する配慮もすごく良いなと思っていて、結婚や出産後も働ける会社ですし、お休みもしっかり取れるので。」とのこと。

IT業界は、ハードワークのイメージがありますが、阿部さんは「我々の若い頃はそんな時代でしたが、今は周りの会社を見てもそれはないですね。弊社も36協定をきっちり守っていますので

昨年1カ月の平均残業時間は約19時間でした。」

また、同社では現在、出産・育児休業中の女性が2人おり、ご本人は早い復帰を希望しているそうです。その他に、育児休業から復帰した直後の女性は週に2日、10時から16時30分まで出社し、それ以外の時間は自宅でしごとをしています。また、育児の関係で時間をずらして勤務している男性社員が2人いるとのこと。

### 一人ひとりの社員と誠実に向き合う

菊田さんは、前職が営業だったことが考慮されて営業支援ツールの開発に携わりました。こうした配慮は社内の隅々にまで行き渡っています。阿部さんは「エンジニアは、自分のスキルアップに繋がる仕事に常にチャレンジしていないとモチベーションが下がって辞めてしまう。彼ちちょっとおかしいなって思った時はすぐ話しを聞き、何が問題かを把握し、対応するようにしています。」

こうした一人ひとりの社員に誠実に向き合い、社員の幸福を第一に考え経営する姿勢が同社の着実な成長を支えていると確信しました。



代表取締役 阿部 健一郎さん

### 株式会社 アーブ

業 種 ソフトウェア開発  
設 立 1995年11月  
資本金 1,000万円  
代表者 代表取締役 阿部 健一郎  
社員数 61名(2019年2月現在)  
所在地 千代田区神田小川町3-8  
神田駿河台ビル 8階  
電 話 03-5259-5891  
www.arp-corp.co.jp



株式会社 M I B  
株式会社 遥（はるか）  
（内装施工）

力仕事ありきの仕事って分かって入ってきたから、鍛えて、重たそうな顔しないでやろうと。今後も精進していきたい。

### 初めて見た職人さんがカッコよかった。

株式会社M I B、株式会社遥は、マンションのリノベーション、戸建・アパート・店舗等の全面リフォームなどを手掛ける会社です。

今回お話しを伺った長南さんは、中央・城北職業能力開発センター 高年齢者校の内装施工科を修了した後、入社しました。伺った時は、入社2カ月が過ぎた頃でした。

内装施工のしごとに興味を持ったきっかけについて長南さんは、「知り合いの人が内装の職人さんをやってまして、その人の仕事の現場を見せてもらって、それで憧れを持つようになって、この仕事をやりたいと思うようになりました。」とはいえそれまでは、このしごとについて全く知らなかった長南さん。彼女の心を驚つかみにした理由とは「実際に職人さんが仕事している姿がすごくカッコよかったので。そもそもスケールの使い方とかすごいカッコよくて、クロスをすごい手際よく貼ってるのも全部カッコよくて、すごく憧れました。」とのこと。

こうして長南さんは、高年齢者校の内装施工科で訓練をすることになるのですが、訓練については「温かい感じで、楽しかったです。仕事となったら厳しいとも教えてもらいました。」とのこと。



左 株式会社 遥 代表取締役 佐賀 辰徳さん  
右 株式会社 遥 長南 唯さん

### すごく感動しています。楽しいです。

こうして今の会社に就職した長南さん。今は株式会社遥の社長、佐賀さんとペアでマンションリフォームの現場に入っしてしごとをしています。長南さんにとって、ここは初めての本格的な現場、緊張しているのかと思いきや「すごく感動しています。楽しいし、やっぱり早く上達したいなっています。」とのこと。

指導役でもある佐賀社長は「基本的に、この業界に携わる人が少ないので、まず興味を持ってくれるということと、厳しいところはあるんですけど、楽しいとかそういう気持ちをもって、技術をあげる、仕事に携わるっていう、彼女みたいな人がいるっていうのはすごく、率直に嬉しいです。その気持ちを忘れずに、どんどん仕事を憶えていって欲しいと思います。」と顔をほころばせます。

### まずはスピードよりも確実に

長南さんへの指導について佐賀さんは「最初はスピードとか、そういう部分はあまり考えてないですね。確実に施工を行うことが、まずは一番だと思っていますね。」といます。

そうした佐賀さんの指導について長南さんは、「緊張感とか、責任感もちろんそうなんですけど、でもすごく親身になって、二人三脚で教えてくださるので、私の性格とかもすごい分かってくださって教えてくださるので、すごい暖かい雰囲気の中で安心して仕事しています。」といます。

株式会社遥の親会社である株式会社M I Bの代表取締役、松田さんは「長い目で見てくれるところです。すぐに戦力というより、2年後3年後に活躍してくれる人材育成といいますか、最初



は真面目に一所懸命取り組んでくれれば。そういうスタンスがこの業界に限らず大事なかなと思っています。」とのこと。松田代表の人材育成に関する方針がしっかり現場で実践されています。



### 重たそうな顔しないでやろうと思って

内装施工には、様々な作業がありますが、長南さんは、まず皆に認めてもらいたい作業として「やっぱりクロス貼りが『上手になったね』って言われるとすごく嬉しいので、まずはクロス貼りですね。」と。しかしクロス自体もクロスを貼るための糊も結構な重さがあります。作業前、長南さんは、糊の入ったバケツを懸命に運んでいました。重いものを運ぶことについて「大丈夫ではないですけど、それありきの仕事ってということも分かって入ってきているので、そこは鍛えて、重たそうな顔しないでやろうと思ってます(笑) 役立たずになっちゃうなと思って」と長南さん。

佐賀さんは「彼女がすごく気を使っているのは分かっているんで、僕に気を使わせないようにしようと思っているのが目に見えて分かるので、他の作業でもそうですし。」と、お互いのことを思いやりながら、作業が進んでいきます。

### お客様の声がやりがいに

今の会社に就職して2カ月、長南さんは、色々な現場で指導を受けてきたそうです。「この2カ月の間でも、お客様に『すごく綺麗になったね』って言われて、やりがいを感じました。」と。

佐賀さんは「お客様の声を伝えることで『作って良かったな』『もっと、より良いものを作りたい』とか『技術をあげたい』と職人が思うでしょ

うし、そういう評価っていうのは大事だなと思いますし、意識的にそういう声を伝えるようにしています。」と笑顔で話してくれました。

### 今後も精進していきたい。

日々、やりがいを感じながらしごとをしている長南さんですが、クロス貼り一つにしても色々難しいことが多いといいます。そして「今後も精進していきたいなと思います。」ときっぱり。佐賀さんは、「力とかどうしても男性と差が出てきちゃうんですけど、彼女の負けん気とか、芯の強さでカバーできるのかなって思います。」とフォローします。これに対して長南さんは「光栄です。すごく嬉しくて、なんて言ったらいいか分かりません。」と顔をほころばせました。

こうした職場環境について松田代表は「技術はやっていれば覚えるでしょうが、挨拶や気遣いなどは意識して育成することが重要。それと、社会保険や福利厚生、休日などの環境も整える。その結果が、人間力に差が出て、品質を高めるのだと思います。」と力強く語ってくれました。



株式会社MIB 代表取締役 松田 隆文さん

#### 株式会社 MIB 株式会社 遥

業 種 内装施工

創業年 2006年9月

資本金 1,000万円

代表者 株式会社 MIB 代表取締役 松田 隆文  
株式会社 遥 代表取締役 佐賀 辰徳

社員数 30名

所在地 大田区下丸子2-28-17

電 話 03-3759-0250

<http://mib-inc.co.jp/>

社会福祉法人 不二健育会  
特別養護老人ホーム  
ケアポート板橋

お年寄りの目線は低い。これに合わせてと心の目線が低くなる。それと笑顔、笑顔は伝染する。それが自分の成長・喜び。

### システムエンジニアから介護職員へ

ケアポート板橋は、特別養護老人ホーム（定員105名）、ショートステイ（定員15名）、デイサービス（一般デイ：定員50人/日、認知デイ：定員12人/日）、ケアプランを作成する居宅介護支援事業所、自宅介護や日常生活のサービスを行うヘルパーステーション、板橋区から受託している高齢者の身近な相談窓口である「舟渡おとしより相談センター」で構成される複合福祉施設です。

今回お話しを伺った岡谷さんは、中央・城北職業能力開発センター 板橋校の介護サービス科を修了後、特別養護老人ホームで介護職員として3年間はたらいしています。

岡谷さんは、板橋校に入校する前、システムエンジニアのしごとを2年間していたそうです。その岡谷さんが介護の世界を目指したのは「友人が介護関係の学校に行っていて、色々聞いていくうちに、すごい面白そうだなって。」思ったのがきっかけだそうです。

こうして半年間の訓練を経て、特別養護老人ホームに就職したわけですが、訓練と現場の違いについて「色々習ったことをやろうとしても、利用者さんも一人の人ですので、実践してもうまくいかないこともありますし、逆にうまくいくこともありますし、そこは毎日学んでる感じです。」



介護職員 岡谷 篤樹さん

### 笑顔、目線、利用者に寄り添う

一人ひとり個性の違う利用者の方への介護は、色々苦勞の多いしごと。その中で岡谷さんが心掛けていることは「まず、自分は笑顔を絶やさず。あと注意しているのは目線です。利用者さんはどうしても車椅子とか座られて、目線は低い位置にあるので、立ったままだと、すごい上から下に向けて話してる感じなので、腰を落として目線を合わせて会話することです。」

また、傾聴も大切だといいます。外出を楽しみにしていた利用者の方が、当日、突然行きたくないと言い出す場合など、利用者の方の話をよく聴くことで、解決することも多いのだそうです。

「『外出が嫌』と言われるのはお手洗いの心配だったり、何か原因があります。そこをよく伺って、どうするかを他の職員と話し合っ、その方の不安を取り除いていけるよう」心掛けているそうです。

また、利用者の方は人生の大先輩でもあります。岡谷さんは、一方的にお世話をするだけでなく、「利用者さんに家族のことを相談したり、話してるうちに利用者さんの方から『こうなさいよ』とか言ってくださったりして」とのこと。

施設長の村上さんは「笑顔って伝染しますので、岡谷くんみたいに笑顔の職員が多いと、利用者さんもつい笑顔になりますし、逆に利用者さんから笑顔をもらう場面もあります。本当の家族のように、悩み事を相談しあえる仲といいますか、そういうコミュニケーションが普段から取れていることは嬉しいこと。」と顔をほころばせました。

### 利用者も人、自分も人

色々な背景を抱えて入所している利用者の方の心に不安や波があるのは当然のこと。一方で介



護職員も人、身体的にも精神的にも波があるのはごく自然なことです。岡谷さんは、そのことについて、目標にしている先輩がいると話してくれました。

「笑顔を絶やさず頑張ろうとしてるんですけど、どうしても気持ちに波があつたりしてしまうんです。でもその先輩は本当に、一定のレベルで毎日利用者さんに接していて、すごいなと思って、自分もそういう風になりたいって思います。」



### 人を育てる、基本はコミュニケーション

介護職員である人が人である利用者のお世話を。そうしたしごとの基本がコミュニケーションであることを岡谷さんはすでに体得し、それが自分の成長に繋がると感じているようです。

村上施設長は「うちでは、新しい職員が入ると、先輩職員が基本的に1年間つきまして、交換ノートを継続して行う、プリセプター制度を採っております。そこでは仕事の悩み・嬉しかったこと、プライベートなことも含め、先輩後輩の間でやりとりしていくうちに、何でも言い合える仲になりますし、頼れる存在にもなるので、先輩にとっても勉強になるんですね。先輩は新人を自分が育てるという使命感を持ちながらやってくれています。そのおかげで岡谷くんも含め、職員が着実に成長してくれていて、やりがいと成長を感じる職員になってきたなと思いますね。」とのこと。

当施設では、その他に月に1回開催の勉強会や、eラーニング、外部研修への参加と研修内容の施設内へのフィードバックなど、様々な育成のしくみを整備しているとのことです。

### やりがいのある職場

岡谷さんは、今年、施設最大のイベントである納涼祭の実行委員長を任されました。この催しは職員が企画・実施、町会など地域との調整も担います。当日は利用者の方の笑顔が見られ、「良かったよ」と声も掛けてもらえ、岡谷さんにとって印象深い出来事だったそうです。

このように当施設では、若い職員でも積極的に意見を言い、それが取り入れる風土があるのです。

村上施設長は、「お給料が高いところにみんなが行きたがるかっていうと決してそうではないと思います。やはりやりがいと成長を感じられる施設にこそ魅力があり、そういう施設づくりが必要だと思って取り組んでいます。また自分たちの職場は自分たちで良くしていく風土づくりにも、取り組んでおりまして、職場環境改善委員会でワークライフバランスの実現などに取り組んでいます。その取組が評価され、平成30年度には『板橋区グッドバランス会社賞』をいただきました。」と満面の笑顔で話してくれました。



施設長 村上 隆宏さん

#### 社会福祉法人不二健育会 ケアポート板橋

業種 高齢者福祉サービス  
創業年 法人設立：1996年2月  
代表者 理事長：竹川 節男  
施設長：村上 隆宏  
職員数 194名  
所在地 板橋区舟渡3-4-8  
電話 03-3969-3101  
<http://www.fujikenikukai.or.jp/>

株式会社 匠栄房  
(看板製作・施工)

誰もが目にする看板だから、やりがいがあるし、好き。いつか、自分にしかできないしごとをしたい。

看板は誰もが目にするものだから・・・

株式会社匠栄房は、看板の制作・施工までを一貫して行う会社です。

今回、お話しを伺った阿部さんは、学校を卒業後入社して今年で10年目、今、屋内・屋外の様々な看板の施工管理で各地を飛び回っています。

看板は誰もが毎日目にするものですが、それをしごとにしたと思った理由を伺うと「小さい頃から父親と色々工作することが多かったんで、何かものづくりの仕事がしたいっていうのがあったんです。それでここに入社させてもらって、気が付いたら10年です(笑)。「看板って、誰もが見るものだし、どこに行くにも看板が目印になるので、まず、誰かに見てもらえるっていうのが一番大きい理由です。」とのこと。

やはり、自分で作った看板は、「ついつい自慢するわけじゃないですけど、見てくれたらいいなというのはあります。」

自信作＝百貨店屋内サイン、屋外大型看板

そういう阿部さんの自信作は、まず百貨店の屋内サイン、1回の注文で、100枚位のサインを夜間みの作業で、1週間位かけて施工する場合もあるといいます。



営業部 製作管理部 阿部 天童さん

代表取締役会長の高橋さんは「看板の設置工事は場合によって、1週間、毎晩夜中に作業することもあるし、そんな仕事の時は、朝、俺が出社すると、社員が事務所のソファで寝てるんだよね。ああ大変だなと思って声掛けしないで、そっとしておくんだけど。」と愛情豊かに話してくれました。

阿部さんのもう一つの自信作は、自動車販売会社の屋外大型看板。これは人に自慢したくなるようで、「車で走ってれば見えるので、『これやった、これやった』みたいに自慢して、たまにうるさいって言われますけど(笑)。」

任せて色々な経験をさせる、のその先に

同社では、社員が色々なしごとを経験することで、成長していくことを大切にしています。阿部さんも例外ではありません。「そうですね。入社後、まず営業をやりました。それから取付、制作など一通り経験しました。」

今、阿部さんのしごとは施工管理がメインですが、営業での経験は、お客様とのコミュニケーションや、しごとの進め方の基礎になっているようです。「今、看板の落下とか報道されてますけど、あれは絶対にあってはならない。お客さんによっては結構、無理なことを言われる場合もありますが、お客様の要望に応えつつ、『ここはこうした方がいいですよ。』って意見言うこともありますし、どうしても折り合えない場合は、見えないところで落下防止の措置を取ったりとか」、阿部さんは、自分の経験を活かして、試行錯誤しながら、言うべきことは言いつつ、出来る限りお客様の要望に応えるようにしているそうです。

こうしたしごとへの姿勢は、同社の隅々にまで行き渡っているようです。

会長の高橋さんは、社員に対する姿勢として





「できるだけ任すというか、自分で考えて、自分で仕事を創り出して、その仕事をこなして、最後までお客さんの満足する仕事をするように、と言っています。要するに信頼して任せる、そういう時って社員の力、伸びるのが早いんだよね。」

色々なことを任せて、経験させ、自分で考えてしごとをする、そうした同社の社員に対する考え方のその先には、社員が自分の力で成長するとともに、お客様の満足を引き出すという大きな果実が待っているのです。

### 10年も続いてません。

阿部さんに社内の雰囲気を知ると「わりかし明るいと思いますよ。みんなで仕事の話もしますし、趣味の話をしたり、家族の話をしたり、結構和気あいあいとやれてると思います。」そういう会社について、「自分には合ってるかな。会社が好きかと聞かれば、まあ好きだと思いますよ。嫌いだと10年も続いてません(笑)。」

若手社員の育成については、「僕が営業の時は、見て覚えろみたいなのが多かったですけど、僕は出来るだけ後輩に『こうやった方がいい』って言うようにしています。社長(高橋大成氏)もそうだし、見て覚えろっていう時代でもないと思うので。」とのこと。信頼して任せるという社風は、今や、社員が自ら育て合うという好循環を生み出しているようです。

### 楽しみながらやっていきたい。

しごとの好循環について高橋会長は「結局、お客さんが喜ばば自分も喜べる。お客さんが面白くない思いをすれば、仕事が出来なくなって自分が

困る。そうすると悪循環になっていく。だから善の循環にきなさいよと。悪循環になっちゃうとね、全部人のせいにしちゃうんです。そうすると相手が直らない限りいつまでも直らない。それなら自分が直した方が早い。」と言います。

阿部さんもまた、会長、社長の背中を見ながら、好循環の中でしごとをしています。そしてその先に「匠栄房でないとできない、そういう看板をやってみたい。うちは、社内一貫製造体制を目指してるんで、色々なことにチャレンジできる。すごくでかくてカッコいいやつとか、漠然としてますけど、そういうことができたらいいい。そういう仕事は自信になりますし、励みにもなります。」「色々やらせてもらえますし、色々な看板があります。それが面白味であり、チャレンジ精神も出てきます。そうした仕事を楽しみながらやっていきたいと思います。」

そう言う阿部さんを見ながら、高橋会長は「社員は友達だと思っている。今後も色々サポートしていきたい。」とにこやかに語ってくれました。



匠栄房グループ 代表取締役会長 高橋 功さん

#### 株式会社 匠栄房

業 種 看板製作・施工  
創業年 1962年10月  
資本金 5,430万円  
代表者 代表取締役会長 高橋 功  
社員数 25名  
所在地 埼玉県戸田市美女木1217  
電 話 048-422-4011  
<http://www.shoeibo.co.jp>

株式会社 シントク  
(冷間圧延用ロール製造・販売)

ものづくりの会社はホワイト企業。未経験者、歓迎。みんな初心者から始めている。丁寧に教えています。

百万分の1ミリ！！

株式会社シントクは、冷間圧延用ロールの製造と販売を行う会社です。冷間圧延用ロールとはステンレスや銅を薄い板に延ばすための機械に欠かせない金属のロールです。同社は、創業以来このロールを製造し続け、現在も国内トップシェア、世界でもシェアの3割を占めています。

今回お話しを伺った戸井田さんは、入社9年目。工業高校を卒業してすぐ、親戚の紹介で今の会社に就職しました。入社するまで「工場というくらいしか聞いてなかった。」という状態で入社し、最初は戸惑いもあったようですが、9年間ここでしごとをする中で、今は会社に愛着を感じているといいます。

戸井田さんの担当は、NC旋盤。同社の製造過程は、円筒形の鋼材を旋盤でおおまかに加工、その後熱加工を施し鋼材の硬度を高め、それにお客様の要望に応じて、溝を彫るなどの精密な加工を行い、研磨して仕上げるといふもの。戸井田さんのしごとは、その中で、お客様の要望に基づいて精密な加工を行う、非常に重要な部分です。

戸井田さんは、高校の時から旋盤には触れていたのですが、高校と会社とでは求められるものが大きく違い、「やっぱり狙ってる寸法とかが非常にシビア、千分の1ミリ、百万分の1ミリとかの

精度を求められるんで、厳しいですね。」と、淡々と答えてくれました。

先輩の指導は厳しく、そして温かい

そう答える戸井田さんですが、入社後は5年間先輩に丁寧に指導してもらい、その技術を学んだそうです。5年間というとかなり長い期間のように聞こえますが、「毎日必死だったんで、あっという間だった」とのこと。その間には「怒られたり、失敗したこともありましたが(笑)」と。

特に「言われた通りにしているつもりでも、そうっていない時などに叱られることが多かった」そうです。そんな時は「悔しい」と思いながら、一人で多くの加工をやりとげた時には、いつも厳しい先輩から『早いじゃん』とか、声を掛けてもらったそうです。一見、クールな感じもしますが、いつもは厳しい先輩だけに、そうした言葉を掛けてもらうと先輩の温かさを感じ「もっと頑張ろう、頑張らないと」と思ったそうです。

そして、戸井田さんは、今ではNC旋盤の部門では、リーダー的存在。後輩の指導については「厳しく、優しく教えてます(笑)」「ちょっとでも人間関係を良くしていければいいな。」と思いながら指導しているそうです。

未経験者歓迎！

戸井田さんの場合は、工業高校から直接の入社でしたが、同社は最近、企業説明会やホームページの立ち上げなど、様々な機会を通じて会社の良さをPRしながら、攻めの採用で、未経験の人でも「どんな仕事でも真面目にやります。」という人を積極的に採用しようと奮闘しています。

社長の田中さんは「うちは未経験でも気にせず採用し、入社後にしっかり教育するんで」といいます。ものづくりの職場はとかく3Kと見られる



製造部 係長 戸井田 佑翔さん



ことが多く、例え業界でのシェアが高いとしてもなかなか採用は厳しいと言われますが、「ものづくりの企業は、給与・手当、労働環境などが整備されていて、今風に言えば他業界よりよほどホワイト企業だと思いますよ。」と田中社長。

そうした実態を理解してもらうことで、もと調理師、トラック運転手、サービス業など、異業種から全くの未経験者が入社してくるといいます。そして、そうした人たちに対して、「うちは殆どみんな未経験で始めてるから、『こんなことも知らないのか』とか、『学校で何勉強してきたんだ』なんて言わない。」「みんな初心者なんだから」という文化が会社にあるとのこと。

そうした社風は、先の戸井田さんの「厳しく、優しく」の言葉に現れており、戸井田さんが指導している社員の多くが辞めずに頑張っているそうです。



### 素材が逃げる？

同社の製品は業界で高い評価を得ているだけに、お客様からの要望も必然的に高くなります。難しいオーダーについて「細いもの、細長いものって結構難しい。あとは複雑な加工もそうです。」特に「細長いものは加工しづらく、削っているときに素材が逃げちゃうんですよ。」と戸井田さん。

そうした厳しいオーダーに対しても、異業種から来た「真面目にやります。」という社員で構成されている同社は強みを発揮します。それは様々な経験や知恵を出し合い、真面目に取り組む風土があるからです。とはいえ、「昔は盗んで覚えろ見たいなところもあったので、今はきちんと口で

教えていきましょう。手順書を作りましょう。と声を掛けて取り組んでいます。今はまだ途中ですけど。」と田中社長。「みんな初心者なんだから」という意識に加え、確実に教育するしくみが出来れば、同社は、新たな技術の創造や社員の定着も一層確実に進んでいくでしょう。

### 風通しのいい会社

戸井田さんは、年上の社員とも気兼ねなくやっているし、休み時間などはプライベートの話なども結構するといえます。

田中社長は「風通しのいい組織にしたい。まあ言いたいこと言って、仕事中はお互いプロとして、ハウレンソウ（報・連・相）して、いい雰囲気を作ろうと言っています。」

そうした社風を一層良いものとするためには、新たな人材の確保が欠かせません。「うちは社員の数が少ないんで、最近、5～6人多様な人が入社して、社内の雰囲気は変わってきた、会社として代謝が起こっている。」と言います。長い歴史と多様な新たな人材、この二つの要素が同社の未来を明るくものにしています。



代表取締役社長 田中 雄大さん

#### 株式会社 シントク

業 種 冷間圧延用ロール製造・販売  
創業年 1964年4月  
資本金 1,500万円  
代表者 代表取締役社長 田中 雄大  
社員数 20名  
所在地 板橋区成増3-49-5  
電 話 03-3930-4160  
<http://sns-shintoku.jp>



株式会社 日精ビーアール  
(総合クリエイティブ業務  
印刷物の制作加工等)

長年培ってきた「伝える」事業を核に時代に応じた改善や新たなビジネスに挑戦。そうした志を社員と共有して更なる成長を。

### 色々な経験がしたい！

株式会社日精ビーアールは、創業80年の歴史ある印刷会社で、環境に優しい「水なし印刷」など新技術にいち早く対応するとともに、付加価値の高い高細密印刷など印刷を核とした会社です。

また、会社案内・パンフレットなどの販売促進ツールの企画・デザイン・印刷、WEBの制作まで営業ツールとして活用するコンテンツに、幅広く、ワンストップで対応するビジネスなども積極的に展開しています。

今回お話しを伺った泉さんは、今年の3月で入社丸1年。同社に入社する前は6年間、建設機械関係の企業で、生産管理のしごとをしていたそうです。転職の理由を伺うと「前の会社は規模が大きくて、色々な経験がしにくいというか、仕事が絞られている環境でしたが、将来は自分で事業をしたいという夢というか、目標があるので、そのためには色々な経験をさせてもらえる仕事があったなと考えて転職した。」そうです。

### 泉さんの想い + 中村社長の熱意

同社の人材確保の活動として特筆すべきは、社長の中村さんが、採用の当初から、先頭に立って取り組んでいることです。泉さんも、最初に中村



営業部門 営業開発チーム 泉 勝太さん

さんと出会い、「新しい事業を立ち上げたいので、色々自由な発想で取り組んでほしい。」と熱く語ってくれたことが、入社の大きなきっかけとなっているそうです。

このいきさつについて中村さんは、「採用は、責任が生じる事なので、経営理念や方針を経営者が、直接伝える意義はすごく重要だと考えていますので、全て私が面接しています。また、弊社は印刷をコアとしつつ、新しいことにどんどん挑戦していきたいと考えており、それを担う気概のある人を求めていたんですが、彼はまさにそういう仕事を求めている、その気概もあったので、是非来てほしいと言いました。彼は、大企業・上場企業の面接も受けていたようですが、経営者が雲の上にいる会社よりも、経営者に近いところで、色々な経験が出来るということから、弊社に入社してくれたというところですよ。」とのこと。

若いうちから色々な経験が出来る、経営者と社員の距離が近く経営者の背中を直接見ながら、経営を学ぶことが出来るのは、大企業にはない中小企業のメリットですが、泉さんのしごとに対する希望が明確でブレないこと、社長である中村さんが先頭に立ち、熱意を持って求職者にアプローチしていることが、中小企業として理想的な出会いをもたらしたといえるでしょう。

### 営業は将来の糧になる、やりがいがある

こうして入社した泉さん、現在は新規事業立ち上げに向けて、試行錯誤の毎日です。同時に、ネット印刷サイトでありながら、エリアを千代田区周辺に絞って、実際に企業などへ訪問し、打合せも可能な「担当者の顔が見える、ネット印刷とリアル印刷の良いとこ取り」の通販サイトの事業も担当しています。

「色々な経験をしたい」という泉さんの希望に



沿うものですが、入社直後から二足の草鞋も大変なのではないかと伺うと「印刷物は業種を問わず必要なものなので、色々な企業や人と繋がりを持てますし、『営業スキルは将来を見据えて、絶対に身に付けておくべき』との助言を頂いて、では是非ということに取り組んでいます。」とのこと。

また、「前職はお客様の顔が見えないところで、やりがいを感じにくかったんですけど、今はお客様と密にコミュニケーションして、一からデザインし、製作して、出来上がったものに対して喜んでいただけるので、すごくやりがいを感じます。」と、中小企業ならではの、印刷業ならではの営業の大切さや醍醐味を感じているようです。



### 培ってきたもの、変化に対応するもの

同社は、創業80年の歴史ある印刷会社ですが、新たな技術の導入にも積極的で、最近では「水なし印刷」にLEDUVランプを付置することで印刷物が瞬時に乾くシステムを導入し、品質向上と短納期を実現しています。そして、中村さん、泉さんを中心に更に新たな事業へと挑戦しています。

こうした経営について中村さんは「培ってきたリソースを活かしつつ、それを今後どう広げていくかというのが私の考えであり、そのことは泉とも共有しています。とはいえ、新しいことはすぐには成果が出ません。ただ、新しいことに挑戦する大変さが、逆にこれまで培ってきた事業の尊さとか、お客様からお仕事を頂けることが当たり前じゃないんだと、改めて気づきを与えてくれたと思います。そして、これまで築いてきた事業を見直すことが、お客様のためになるというふうに感じています。」とのこと。

今、印刷業界は大きな転換期を迎えているといえます。デジタル化・紙以外の媒体へのシフトの加速、ネット印刷の拡大など、印刷業を取り巻く様々な変化の中で、中村イズムは、ある部分は大胆に、ある部分を着実に進行しています。

泉さんは「営業の中で、お客様がよく格安のネット印刷と比較されますが、例えばポスティングするチラシなどは、ネット印刷でも良いと自分でもお客様に言っています。でも、会社案内など会社の経営を左右しかねない印刷物は質を最重視し、コストかけてでも、良いものを製作した方が良いということはきちんとご説明して、そこはお客様も理解していただいています。」といえます。

### 「伝える」という志に共感すること

中村さんは「弊社は、設立当初から印刷を通じて、情報とか人に想いを伝えることに取り組んできました。この『伝える』ことを時代に合わせて変えていこうという『志』に共感できる人を採用し新たなビジネスに挑戦すると同時に、社員が志に共感し、培ってきたコアビジネスを育てていくことで、社員も私も一緒に成長していきたい。」と真っ直ぐに語っていただきました。



代表取締役社長 中村 慎一郎さん

#### 株式会社 日精ビーアール

業 種 総合クリエイティブ業務・印刷物の制作加工等  
創業年 1935年10月  
資本金 2,000万円  
代表者 代表取締役社長 中村 慎一郎  
社員数 60名  
所在地 千代田区岩本町1-10-5 T関ビル7階  
電 話 03-5835-2711  
<https://www.nspr.co.jp>



日本特殊光学樹脂 株式会社  
(光学製品・金型製造・販売)

ものづくりを色々学んできたけど、現場で経験しないと分からないことが多い。そうした環境が自分を成長させてくれる。

### これまで色々勉強してきたけれど・・・

日本特殊光学樹脂株式会社は、プラスチックレンズと各種金型を製造・販売している会社です。

今回お話しを伺った内堀さんは、入社して1年半、ものづくり大学で大学院まで進み、その後研究機関を経て、同社に入社しました。今は金型の製作を担当しています。

社歴はまだ短いものの、ものづくりに関してはこれまで色々な勉強を続けてきた内堀さん、すんなりとしごとに慣れたのかと思いきや「もう大変ですね。この会社に入って、大学で習っていたことでは全然足りない。50%くらいしか役に立たなくて。やはり現場じゃないと分からないことも多いので、今も色々考えながら仕事してます。」とのこと。「現場でいざ仕事となると、納期とか期限があるので、臨機応変に『ここはこうしたらいい』とか『こうしたら精度がでる』とか色々必要になってくるので、そういう事は、やはり現場で実際に先輩方に聞かないと分からないことも多いので。」といます。

### 環境が人を成長させる。

ひと昔前までは、技術は先輩から盗むものという気質が強かったものづくりの現場、今は少し様



技術部 金型製造課 内堀 雄輝さん

子が違うようです。「先輩にはフランクな方が多いので、聞けば大体丁寧に教えてくれます。」高価な工具を破損させた苦い経験も「理由を説明してくれないと、なんでそうなったのか分からないですけど、その辺をしっかりと教えてくれるので、同じ失敗は繰り返しません。」

そうした会社の雰囲気、内堀さんの中で確実に根付き成長しているのでしょう。「やはり現場じゃないと味わえない空気といいますか、環境は人を変えるんですね。」

### 手作業が創造する世界

ICT技術やAIにより、ものづくりの現場も機械が精密な加工を担うようになって来ています。しかし、テレビ番組などでもよく取り上げられるように、ロケットの部品など先端、特殊な「本物」は今も、将来も手作業なくして生み出すことはできません。そしてそれは、中小企業が最も得意とする部分なのです。

内堀さんは「手作業でやることも結構多いんですけど、高い精度、ミクロの世界のことをやらなきゃいけないこともある。機械は確かによく動いてくれるんですけど、刃物を機械にセットするのは人の手によるものなので、経験を積んでいかないといけないことが多いですね。」といます。

そして、「そうした作業を一通り自分でやって出来た金型を見た時、それを周りからほめられた時は、やっぱり嬉しかったし、やりがいを感じた。」とのこと。

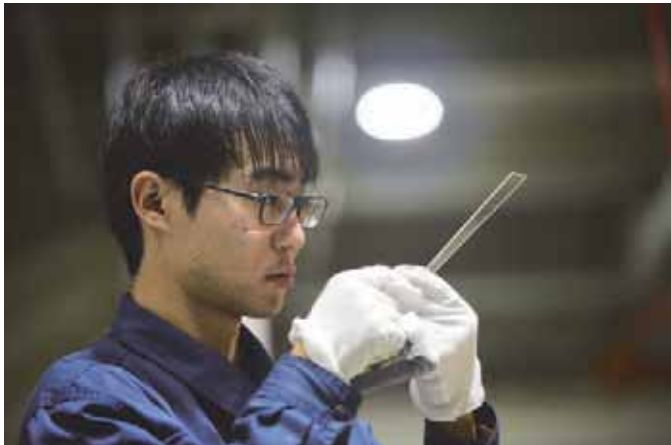
### 「本物を作る」ために必要なこと

同社の社訓は「本物を作る」。内堀さんたちはそうした「本物」づくりに日々励んでいるのです。

社長の佐藤さんは「本物ってなんだって自問自答して常に自分が手掛けている仕事、目の前にある仕事に自信を持って出来るように、と思ってい



ます。そのためには、やはり理念があって、一本軸が通っていて、こだわる必要があると思います。うちがやっている特殊・超精密なものは、そうしたこだわりがないと作れないものだし、それが揺らいだり、周りに流されては到達しないところがある。」といます。



### 「本物」を作っている自負を一層育む

内堀さんは「うちの会社は、他で作れないようなものを作っているという自負といますか、自慢があります。自分はそのまでのレベルじゃないですけど。」と語ります。

佐藤社長は「お客さんからうちの会社がどう評価されているのか、そのもとになる製品を作っているのは内堀くんたち、社員なのだから、自分が作った製品がどういう評価を得て、世の中でどう役立っているのか、それを彼らに伝えるようにしなければいけない。それが軸をしっかりもつことや、働きがいにつながっていくと思います。そのようなお客さんとの近さが中小企業の魅力であり、中小企業だからこそ、そこを活かすための風通しをよくすることが重要だと、今日、内堀くんの話聞いて思いました。」と自らに言い聞かせるように語ってくれました。

### 多彩な人材が「本物」を創り出す

同社の社員の経歴は「ユニーク」と言えるほど、様々です。そうした人たちは、「企業理念に共感してくれたりとか、特殊なものを作っているの、そこに面白さを感じて入社してくる人が多い。」と佐藤社長はいます。

そうした環境であればこそ、重要なのがコミュニケーション。内堀さんは、しごとをするうえで先輩からのアドバイスや、社員相互で話し合いながら試行錯誤することが大切であり、そのために「休憩時間などにコミュニケーションをとって、仕事の時にいかに気軽に悩みなどを聞けるかっていう関係を築くのが大事」といます。

社長の佐藤さんは、「多彩な人材の力を結集し、常に本物を作り続けるためには、お客さんからのリクエスト、市場のニーズなどに対して、どこをどう改善すればそれに対応できるようになるか、そのために今、何をすべきかと言った目標の設定と、それを伝える努力が必要」といます。

内堀さんのような研究畑からの人、大企業からの転職者、元お弁当屋の店長など、ユニークな経歴をもつ社員一人ひとりを佐藤さんは「仲間」と呼びます。そして、「そうしたユニークな仲間と一緒に、色々なことにチャレンジすることが面白いし、そういう気持ちをみんなでも共有しながら頑張ることを楽しみたい。」と明るい表情で語ってくれました。



代表取締役社長 佐藤 公一さん

#### 日本特殊光学樹脂 株式会社

業 種 光学製品・金型製造・販売  
創業年 1974年4月  
資本金 1,000万円  
代表者 代表取締役社長 佐藤 公一  
社員数 28名  
所在地 板橋区蓮根2-16-10  
電 話 03-5916-0801  
<https://www.ntkj.co.jp/>

萩原印刷 株式会社  
(印刷)

自分が一所懸命にやったしごとにお客様から感謝され、やって良かったと思う。その経験にまた感謝。

子どもの頃から本が好きだった。

萩原印刷株式会社は、創業90年を超える歴史ある企業、書籍の出版印刷、電子書籍、Web制作など、出版に関する幅広いビジネスを手掛ける会社です。

今回お話しを伺った西村さんは、同社の幅広い出版ビジネスの中で、最も基礎の部分ともいえる印刷機オペレーターのしごとを担っています。

西村さんは学校を卒業して呉服店に就職、販売員のしごとを経て、同社に転職しました。その辺りのことについて伺うと、「元々着物とかも好きではあったんですけど、ただもっと違うことをしていきたいな、作る方にいきたいなと思うようになりました。子どもの頃の夢が本屋だったし、呉服よりも本は人々の身近にあるもの。それで本の業界をちょっと見てみようと思って、色々な会社を拝見させていただいて、最終的には『印刷』にしようって決めました。」とのこと。

ものづくりという観点であれば、呉服を作るという選択肢もあったのですが、子どもの頃から本が好きで、よく読んでいて、人々の身近にあるものを作りたいと考えた西村さん。自分のやりたいことが明確で、それを行動に移す。印刷業への転職は、自分の軸をしっかりと持っている西村さんだからこそ実現したのでしょうか。



製造部 印刷科課 主任 西村 駿さん

印刷は奥が深い

西村さんは、同社に就職後、印刷工場内の様々な機械のオペレーターを経験した後、今は工場内で最も大型の5色機のサブ機長を任せられています。

一般の人からすれば、印刷は機械が自動でやってくれるものと思いがちですが、「(指定の)色を出すのに、この印刷機であれば基本的にこのくらいの量のインキを出すというのがありますが、気温が高いとインキがすぐ緩くなっちゃうし、逆に寒いと硬くて全然練ることができない。また、湿度で紙の状態が変わってきちゃって、紙が流れにくくなったりもします。」とのこと。だから人の手がどうしても必要になると西村さん。印刷について「大量生産品ではあるんですけど、本屋さんでパッと見て『このカバーが気に入ったから、絵が気に入ったからちょっと見てみようかな』っていう人もいらっしゃると思います。そんな風に人の心に訴えることが出来るのは、やっぱり人の手が関わっているからじゃないかな。」とも。本好きな西村さんだからこそ言える、真を突いたお話しです。

感謝され、感謝する。

真摯に仕事に取り組んでいる西村さんですが、そうしたしごとに対するお客様の声が聞こえてくるのが時折あるといいます。その中で特に印象に残っているエピソードとして「お客さんが工場へ立合いに来ることは、そんなにあることではありませんが、立合いに来るということはそれだけ色に対して気にしておられるから来られるので、簡単な仕事ではなかったんですが、その時の仕事のやり方であるとか、出来上がったものに対して、後で営業担当を介して『感動しました』って言ってもらえたことがありました。その時は良



かったなって、目の肥えたお客さんからそう言われたことは、ありがたいなって思いました。」



自分のしごとに対してお客様から感謝され、そのお客様に対して感謝する、感謝の応酬、それは職人冥利に尽きる、最高の出来事ではなかったのでしょうか。「そうですね。感謝され、感謝する。確かに珍しいことですよ。自分が一所懸命やって作ったものに対して、何かしらの、褒めていただいたり、そういうお言葉をいただけるっていうことが単純に嬉しいし、やってて良かったって思えるから、だからお客さんにも感謝するって、そういう感じでしょうか。」と西村さん。

そういう経験の積み重ねが、西村さんをまた一段大きく成長させていくのかも知れません。

### 萩原フィロソフィー

西村さんの真摯なしごとを育んだもの。それは同社の経営理念「萩原フィロソフィー」と、それを「血肉化していく取組」、そしてそこから生み出される「社風」にあると社長の萩原さんは語ります。「うちの会社の企業理念、経営方針、社風だとか、そういうものに共感できる方がうちにいらっしゃるんですよ。だから、社風って社員一人ひとりの雰囲気が集まったものでもあるんですよ。他の会社との差別化って重要ですけど、差別化って社風だと思うんですよ。」

こうして生み出された社風とは、「品質に関してはすごく厳しいので、もし何かミスがあって、自分たちが申し訳ないなと思ったら、相手が気が付かなくても刷り直しさせていただきますとか、そういう誠実な姿勢がすごく大事。大企業の不祥事はよく耳にしますけど、中小企業がそんなこと

やったら、一発で消し飛んでしまいますので、やっぱり誠実に丁寧に一所懸命やるっていうのが基本なんですよ。判断するときには損得でやるんじゃなくて、物事が正しいか正しくないか、それで判断しましょうと。そうすれば大きな間違いはないじゃないですか。」とにこやかに、かつ力強く語ってくれました。

### 印刷が好き

西村さんが今、目標としていること。それは同じ5色機の機長を務める先輩が『この人だからこの仕事を任せた』と言われるくらいの人なので、そういう風に言われる人になりたい。」ということ。そして一番嬉しかったことは、その先輩から「4色の仕事をさせてもらった時に、上手くいったことがあって、その時『あれ上手くいったね』ってポロっと言ってもらったこと。」だそうです。こうしたお話しからも、誠実な社風が感じられます。最後に西村さんに印刷が好きかと尋ねると、「好きなんだと思います。」とためらいながら、しかし爽やかに答えてくれました。



代表取締役社長 萩原 誠さん

#### 萩原印刷株式会社

業 種 印刷  
創業年 1925年1月  
資本金 1,000万円  
代表者 代表取締役 萩原 誠  
社員数 70名  
所在地 文京区後楽2-21-12  
電 話 03-3811-4272

<http://www.hg-prt.co.jp/>

橋本電気 株式会社  
(電気設備工事)

不安だった。でも自分のやりたいことをやろうと飛び込んだ。今は、「自分がやった」といえるものを施工したい。

最初は不安でした。

橋本電気株式会社は、電気設備工事を専門とする会社です。

今回お話を伺った木谷さんは、テーマパークのスタントマン、介護福祉士のしごとを経て、中央・城北職業能力開発センター 赤羽校の電気工事科で1年間、職業訓練を受けた後、現在の会社に就職した、ユニークな経歴を持った方です。

電気工事のしごとを目指したきっかけについて、「父が電気工事の仕事をしていて、元々興味はあったんです。ただ、男性が多い世界ですし、女性の私が飛び込んで馴染めるのかなって不安があって、なかなか踏み出せなかったんです。」そうしたなか、「30歳になったときに、最後のチャンスと思って、自分のやりたいことをやってみようと思い、赤羽校に入校しました。」

こうして、赤羽校に入校した木谷さんでしたが、「電気工事科の生徒で女性は私だけ、最初のうちはちょっと場違いなところに来ちゃったな、とは思ったんですけど、やっていくうちに、周りの皆と仲良くなれて、助けてくれたりもしたので、最後の方は楽しく訓練を受けました。」木谷さんは就職してからも、現場に入る前などに電気工事科の指導員に連絡し、相談にも乗ってもらっているとのこと、「私にとって指導員の先生は、今でも

いい相談相手であり、心強いです。」とのこと。

優しい雰囲気ของบริษัท

赤羽校での訓練修了後、木谷さんは橋本電気に就職します。その理由について、「まず、社長が女性だということ、会社見学の時、社員の方が色々声を掛けてくださって、なんか優しいような雰囲気だったので。入社してからも、社長から色々声を掛けてもらっています。」と話してくれました。

こうした「優しい雰囲気ของบริษัท」について、「電気工事の仕事って、現場では他の業者さんに怒鳴られたりする場面もあると思いますので、会社の中だけは暖かくやろうよと言ってます。ここは社員にとってホームグラウンドですからね。ホームグラウンドだけでも楽しく。それが一番かなと思ってます。」と社長の橋本さん。社長の社員への深い愛情が会社の雰囲気を創り出しています。

現場は面白い、けど難しい。

木谷さんは、今、現場代理人として工事現場で活躍しています。ただ、現場にいる人のほとんどが男性、そのことについては「皆さん優しく接して下さるので、特に不自由とか、居心地が悪いことはないです。」とのこと。

ただし、工事現場は生き物、図面通りにはいかないし、他の工事との調整も多い。そうした状況について、「電気工事は面白い、ですけど難しいです。なんか本当に悩めることが多いです。」

「まずは自分で考えますけど、自分で考えてどうにもできない時は、職人さんとか先輩に聞いて一緒に考えてもらいます。」ただ、時には意見が食い違って、職人さんと言い争いになることも。そんな時は「職人さん、年配の方が多いので、気を使ってくださって、最後は普通に声を掛けてくれ



内装事業部 木谷 明里さん



ます。」とのこと。若いもの勝ちってことですかと尋ねると「そうですね (笑)。」とにっこり。



### 訓練で学んだことが現場で繋がる

赤羽校で学んだ木谷さんが、今一番感じていることは、「電気工事の世界は奥が深い」ということ。そして「現場も色々見ないと本当に分からない事が多くて、現場によって施工の仕方も、やる事も変わるので難しい。」ということ。

こうした様々な経験を経て「電線の接続とか、色々な施工を実際に現場で見ることで、訓練で断片的に学んだことがしっかりと繋がった」といいます。

そして現場で得たもう一つの思い、「最近、初めて現場を一人で、最初から最後までやらせてもらったんですけど、それは自分で見たっていう達成感がありました。」大変なしごとだからこそ味わうことのできるものなのでしょう。そうした経験から、もし目の前に電気工事士になりたいという女性が現れたら、「やりがいを感じられる仕事なので、もしなりたいて言うのであれば、是非育ててあげたい。」といっています。

### 「これは自分がやったんだよ」

木谷さんは将来の夢について「もっと色々勉強をして、いろんな建物に関わりたいたいなと思います。『これは自分がやったんだよ』っていう建物、何か残るものを施工してみたいって思います。」とまっすぐに語ってくれました。

このように、一人ひとりの社員が、将来に夢を持って働けるのも、社長の橋本さんの地道な努力の賜物といえるでしょう。

### 命をお預かりしている。

橋本社長のポリシーは、中小企業は人材が財産、ただ完璧な人はこの世にいない、皆病気など色々問題を抱えている。だからこそ、一人ひとりの社員に寄り添った対応をし、社員と会社が「共存共栄」していける企業を目指しているといっています。

同社には、癌治療をしながら勤務している人、入社拒否症を半年がかりで克服した人などがいますが、皆さんいきいきと働いています。

また、ご自身の闘病の経験、虐待の実態取材した前職の経験などから、人は皆様々な背景を抱えながら生きているがゆえに、本質的には他者に優しい生き物だと確信しているそうです。だからこそ、それぞれの社員に寄り添った経営に対して、社員全員がそれを認めてくれ、協力してくれるのだと。

そして、経営者としてそうした愛おしい人たちの命をお預かりしているのだといっています。

それはまさに愛の経営と呼ぶにふさわしいものでした。



代表取締役社長 橋本 明子さん

#### 橋本電気 株式会社

業 種 電気設備工事  
創業年 1958年4月  
資本金 1億円  
代表者 代表取締役社長 橋本 明子  
社員数 52名  
所在地 豊島区北大塚2-20-4  
電 話 03-3915-3121  
<http://www.e-bridge.co.jp>

株式会社 パースジャパン  
(病室向けテレビ等レンタル)

人生の先輩相手の営業、成功の秘訣は「元気」。しごととは楽しい。そう思える縦横無尽のしくみを社内に整備。

先輩からいい会社だと聞いて

株式会社パースジャパンは、テレビ、冷蔵庫、床頭台など、病院等の入院患者用品のレンタル事業を中心に展開している会社です。

今回お話しを伺った目黒さんは、3年前に広告代理店から転職してきました。

同社の取扱う商品は、病院へ行けばよく目にするものですが、これらを専門的に取り扱っている会社があることは意外に知られていません。目黒さんの場合も、同社のビジネスのことはよく分からなかったけれども、「先輩が非常にいい会社だと自分で胸を張って言っていて、話をしていくなかで、今の会社に魅力を感じましたので、入社した。」とのこと。具体的には「働きやすさ、社内の人間関係がすごく良く、社内コミュニケーションも充実していること、仕事も真剣にやりながらプライベートも充実しているといった、時間のメリハリをしっかりとつける会社であり、そういう点を魅力的に感じた。」と語ってくれました。

入社後は先輩と1年間二人三脚

目黒さんは、入社以来、営業を担当しています。同社の場合、営業の比重が高いことから、営業職の人材育成は、ユニークです。「最初の1年くら



関東営業所 目黒 慎太郎さん

いは先輩と一緒に毎日、先輩の案件をぐるぐる回る。その案件を引き継がれて自分の担当エリアを持つという流れで、先輩が1年間もついてくれるので根掘り葉掘り教えていただけますし、相談もしやすいです。」とのこと。1年間もマンツーマンで先輩が指導するというやり方は、ビジネスが特殊なこともあります。非常に手厚いものです。

管理部経理・財務グループ長の西村さんは、「先輩に長い期間ついてもらって、本当にいろんな事を身を以て教える。車での移動が長いため、一対一で話せる機会も多く、そうした事によって、仕事だけでなく、いろんな事を相談できる人間関係を築くことを重視しています。」とのこと。同社独自の育成方法は、それだけにとどまらず、社内の人間関係を良いものにする意味でも、効果を上げています。

営業の秘訣は「元気」

主に病室向けの商品を取り扱う同社の営業は、業界でのシェアが大きく知名度が高いとはいえ、他の業種の営業とは違う難しさがあるようです。営業先である病院等での相手は「事務部長とか、50～60歳代の決裁権を持つ、病院経営のキーパーソンとなる存在なので、言葉遣いとか身なりとか、あとは病院なので、院内のマナーやルールなど、色々なことに気をつけています。」と目黒さん。

若い目黒さんにとって、営業の相手としてはかなり手ごわそうな気もしますが、営業先でのコミュニケーションについて「年が離れているというのは逆に一つの武器かなとは思いますが。年が離れていると、元気さを全面に出した姿勢で行って、お客さんからしても、多分息子さんとか娘さんとかと同じ世代でしょうし、そう勝手に想定して、お客様のお話しで分からないところがあって





も、とにかく頑張る。頑張っている姿ってというか『とにかくやります』ってというような姿勢で行くと、可愛がっていただけたりとか、時には厳しいことも言われたりとかするので、最終的には『頑張っているね』って言ってもらえることもあります。」とのこと。営業先での目黒さんの奮闘ぶりと、それに優しくも厳しく対応する相手の事務部長の姿が目に見えるようです。

目黒さんは、先輩はもちろんのこと、お客様からも育てられている、目黒さんの周りには、彼を成長させるものがたくさんある、そんなことが感じられます。

### 人を育てる縦横無尽の取組

元気に、前向きに成長している目黒さんですが、その基礎には、同社の様々な人を育てるための工夫があるのです。その第一が先輩との組み合わせ、西村グループ長は「合わない人と1年間というのは厳しいので、仕事が苦にならないように、入社時に適性検査を受けてもらって、その人の性格にできるだけ合わせるかたちで、パートナーやカリキュラムを決めていく。」のだそうです。

目黒さんは「前の会社の時は、朝起きて『あーヤダな』って思うことがあったんですけど、今はそう思うことはほとんどないですね。」とのこと。

この仕事が苦にならないようにするため、同社では様々なことに取り組んでいます。西村さんは「仕事が苦にならないように、一人ひとりの社員に合わせて目標設定、目標管理を行い、小さな達成感を積み重ねる仕組みをつくって、それをケアしていく。」ようにしているとのこと。

また価値観や経験が異なる社員の力を結集し、時代の変化に機敏に対応するためには、経営理念をベースとした自由なコミュニケーションが重要であると西村さんは言います。「経営理念と目標、これは様々な機会を設けてしっかりと伝えることで、価値観を共有しつつ、職種・勤務地を越えて世代別に横の繋がりを作ってありますので、そこで自主的に色々な意見を出し合い、その結果を経営に取り込んでいく仕組みを作っています。そういった仕組みがあってこそ、経営理念や経営方針に対して社員一人ひとりが自分のこととして捉えることができるようになります。」

### 仕事が「楽しい」ということ

目黒さんは今のしごとを「楽しい」と表現しました。これについて西村グループ長は「楽しいって一番大切なこと。仕事にしてもプライベートにしてもそうです。楽しいって思える環境を作らないと会社は永続しない。そこは意識して取り組んでいますし、それは中小企業だからこそ取り組みがしやすい。」と真っ直ぐに語ってくれました。



管理部 経理・財務グループ長 西村 裕一さん

#### 株式会社 パースジャパン

業 種 病室向けテレビ等レンタル事業

創業年 1984年4月

資本金 1,000万円

代表者 代表取締役 高西 正博

社員数 106名

所在地 文京区本郷5-26-4

東京クリスタルビル

電 話 03-3814-6838

<https://persjapan.co.jp/>

株式会社 フクイン  
(印刷)

印刷機オペレーターは色に対する感覚を研ぎ澄ますクリエイティブなしごと。自分の作ったものをみんなに見てもらいたい。

### みんなに見てもらえるものを作りたい。

株式会社フクインは、創業70年の歴史ある印刷会社です。最近では質の高い印刷物の製作とともにWeb開発などの事業も手掛けています。

今回お話を伺った川上さんは、中央・城北職業能力開発センターのグラフィック印刷科を修了後、同社に就職して3年、今は2色機の機長として活躍しています。

グラフィック印刷科の訓練は、主に印刷機オペレーターとなるためのもの。印刷機オペレーターは、重い紙を積むなどの力仕事を伴うしごとですが、なぜ川上さんは、印刷機オペレーターを目指すことにしたのでしょうか。「もともとデザインを学んでいて、その専門学校で印刷の勉強っていうのも少しだけ『こういう仕事もあるよ』って話をされて、それで印刷の方も学んでみたいと思ったのがきっかけですね。」でも、印刷のしごとと言えば、DTPオペレーターのようなパソコン上でデザインする分野もあるわけで、なぜ印刷機オペレーターを選んだのでしょうか。「DTPにも興味はありましたね。あったんですけど、印刷をすることによってモノになる。モノを自分で作るっていうことがやっぱり楽しい。」と川上さん。

そうした志向は子どもの頃からあったそうで「絵を描いたりとか、粘土をいじったりとか、そ



生産統括部 印刷課 川上 瑞己さん

いうのは小さいころからずっとやってましたね。」  
「とにかく、形にするのが楽しいと思います。」  
でも、形にするのであれば他にも選択肢があるのでは？「みんなの身近にあるから、みんなに見てもらえるものだから。」と、川上さんのものづくりに対する軸は少しも揺るがないようです。

### 自分の作ったものが世の中に！

実は、川上さんの手がけた書籍は、今、書店に並んでいます。それも入口正面のプラットフォームの上に。自分の作ったものが、世の中の多くの人に見てもらえていることについて「やっぱり嬉しいですね。友達とかと話してる時にも、『その本見た』って言うてくれると嬉しいですし、ニュースとかで取り上げられてたり、そういうのを見ると嬉しい。」と川上さん。

友達が知っている本を、自分が印刷したことを話せたことは「友達に印刷を知ってもらえるきっかけになったかな。(世の中は)印刷よりかは、デザイナーやイラストレーターの方が知られていると思うので、印刷のことももっと知ってもらいたいなって気持ちはあります。」とのこと。

### 印刷はクリエイティブ

川上さんは、印刷機オペレーターは、デザイナーやイラストレーターと同じくらいクリエイティブなしごとだと思っているそうです。「専門学校に行っていた時も『印刷はクリエイティブな仕事です』って教わっていたし、訓練を受ける前から『クリエイティブなんだ』って思っていました。」印刷機オペレーターは、紙を積んだり、機械の設定もありますが「色を見るっていうことに関してはかなり感覚が大きい」と川上さん。川上さんの感覚を研ぎ澄まして、機械ではどうにもならないところを調整しなければならないわけで、「この



仕事は色を見る力が大切なんじゃないかな、と思います。」印刷は機械が刷るけれど、最後は人の感覚によるもの、そこがクリエイティブかと伺うと「そうです。」と川上さんは大きく肯きました。



### 訓練とは違う現場の厳しさ

川上さんに訓練と現場の違いを伺うと「現場での作業は訓練のスピードの2倍、3倍、もっとですね。訓練では一つひとつの作業を丁寧に教えてもらうんですが、会社では効率よく、テキパキと仕事をする、仕事の速さを教えてもらいました。」とのこと。そうした会社での教育について、「結構優しい感じで教えてもらいました。でも厳しい人もいるので、メリハリがちゃんとあって、しっかりと技術が身に付いたと思います。」

また、「結構この会社は色々新しいことをやらせてもらえるので、機長の仕事も早いうちに教えてもらったのかなと思います。」とのこと。そして、機長となった今も日々学ぶことが多く「トラブルが起きた時とか、機械が止まっちゃった時とかにどう復帰したらいいのかっていうのはまだ、ちょっと分からないところが多いので。」と、今後も川上さんの奮闘は続いていきます。

代表取締役の藤原さんは、社内の人材育成について「お客さんのお仕事を直接自分がやって製品として世の中に出る、そういう緊張感の中で仕事をこなしていくっていうのが一番の教育になる。」といます。また「うちは中小企業なので、入社から色んな部署で色んな経験を積んで、色んな立場を味わって、それが10年くらい続くことが一

番の教育になるんじゃないかなと思っています。」と語ってくれました。

### 東京のど真ん中にある印刷会社、その意義

川上さんは「社内の人間関係は良好だと思えます。結構気軽に皆さんお話ししてくれるので。」と。そうした環境の中で「機械のことをもっと知りたい。2色機以上の4色機、5色機も気になります。」と将来を真っ直ぐに見詰めています。

藤原社長は「お客様から厳しいオーダーをいただく、品質優先の会社ですので、現場の腕も落ちません。ここ文京区の東京のど真ん中に工場がある意味はそこにある。厳しいオーダーに取り組むという姿勢を変えてしまうと人材も育たない。それに、難しいオーダーの方がやっぱり出来た時の社員の嬉しさも違うでしょうし。お仕事を運良くいただいている気がします。」と語ります。

そうした厳しいオーダーと、温かい人間関係の中で、川上さんはこれからも成長していくのでしょう。最後に川上さんに印刷のしごとは天職ですかと尋ねました。川上さんは「そうですね。適していると思います。」と笑って答えてくれました。



代表取締役 藤原 俊一さん

#### 株式会社 フクイン

業 種 印刷  
創業年 1948年7月  
資本金 7,200万円  
代表者 代表取締役 藤原 俊一  
社員数 61名  
所在地 文京区音羽1-23-3  
電 話 03-3946-2281  
<http://www.fukuin.co.jp/>

株式会社 ミヤイボデー  
(自動車車体整備)

やっぱ辞める時に引き留められるようになるまでやってやろうと。会社の利益になるしごとをさせてもらえると意識も変わる。

自分の車には全然興味ないですね。

株式会社ミヤイボデーは、自動車車体整備の会社です。自動車をお持ちの方なら、車体についてキズやヘコミの修理などで、一度はお世話になったことがあるのではないのでしょうか。

今回お話しを伺った矢田さんは、中央・城北職業能力開発センター 板橋校の自動車車体整備科を修了後、同社に入社して12年、今は舟渡店の店長を務めています。

矢田さんが板橋校に入校したきっかけは、バイト先の先輩からのアドバイスだったそうで、もともと自動車が好きというわけではなく、それは今も変わらないそうです。「自分の車をいじろうとか思ったことはないですね。いじってないし、凹んでますし、仕事増えちゃうんで。」と、お客さんからのしごとに集中しているとのこと。

やっぱ辞める時に引き留められたい。



舟渡店 店長 矢田 元貴さん

自動車車体科の訓練は、2年間、「結構きつかったです。休んじゃいけないし。」それでもしっかり訓練して今の会社に入社して12年、最初は「すぐに辞めてやろうと思ってましたね(笑)」 「やっぱ何にも出来ないし、あんま役に立ってな

いかなって。自分が役に立ってないなっていう、だからつまないし、周りも先輩ばっかで、口には出さないけど、『邪魔だよ』『ボートとしてんじゃねーよ』みたいな雰囲気でしたね。」

それでも気付くと12年、更に去年からは店長、続けてこれた理由を「やっぱ辞める時に引き留められたいですよ(笑)。あの時、辞めたいって言ったら多分『辞めてもいいよ』って言われてたんで。『辞めないでくれよ』って言われるまでは頑張ろうかなと思って。」と矢田さん。

実は、矢田さんは、12年経った今でも、社内最年少。最年少の矢田さんが店長になったのは、「社長が聞いたんですよ。『誰がやるか』って。みんなやらないって言ったんで、じゃあと思って。」矢田さんが引き受けたそうです。

このエピソードについて、代表取締役の宮井さんは「独立したい。自分で社長になりたいって言う人を採用したいですよ。それこそ、矢田くんみたいに店長やるっていうのも、独立の一つの形でしょうね。そういう方は早く憶えたいから一所懸命やりますし、一所懸命吸収しますからね。そしてうちを辞めていく時まで、基本的に入口から出口まで教えます。フロントから仕事、営業までね。そうすると独立した時に強いですよ。我々の業界が弱いのは営業力。それで、矢田くんが手を上げて『私やります』って言ってくれたんでね。しっかり教えて、だいぶ憶えたと思いますけども、彼の考え方も当然あるでしょうから。別に『あれがダメ、これがダメ』なんて、私言うつもりさらさらないんで。とにかく会社が黒字にならないとダメだよとは、はっきりと言ってます。」

やる気はどこから？

こうして、「すぐに辞めてやろう」と思っていた矢田さんが、すぐに辞めていく若手社員を横目



にしごとを続け、今や、店長となったわけですが、そうした気持ちの分岐点は、どこにあったのでしょうか。「やっぱりちょっとずつ仕事任せてもらえるようになってくると、ちょっとずつやる気が出てくるっていうんですか。多少役に立つ、会社のために、会社の利益になるような仕事をやらせてもらえるようになった頃からは、まあ頑張ろうっていう」ふうに変わっていったといいます。

会社の利益を意識しながらしごとをする、宮井社長の想いと、矢田さんの気持ちが重なったことで、今、矢田さんは店長として、新たな一步を踏み出したのだと感じました。



### 自動車車体整備は今後「本物志向」へ

自動車に関する技術はAI等の活用によって、大きく変わってきています。車体整備のしごとにも、そうした新しい知識や技能が求められるようになっていきます。それに加えて、あと20年くらいで事故を起こさない車が出てくるだろうとの予測もあります。そうした自動車を巡る環境の激変の中で、自動車車体整備のしごとはどのように変わっていくのでしょうか。

宮井社長は「色が気に入らないから塗り替えるとか、古い車にどうしても乗りたいとか、本当に車を愛している方が車を直すっていう社会がいずれ来るでしょうね。今でも安ければいいという方は安さを売りにしているところへ持って行かれるでしょうが、きれいに直したいというお客様は我々のところに来てくれています。」

自動車車体整備のしごとは今後益々「本物志向」が強くなるということでしょう。矢田さんは主に塗装の担当ですが、キズの箇所を塗装することに

ついて「塗るのは多分誰でもやれば出来るんですけど、色を（キズのない箇所と）合わせるのは技術とか、年季が必要」で、目の肥えたお客様にはその違いがはっきりと分かるといいます。

そうした目の肥えたお客様に『『きれいになったね』『こんなにきれいにしてくれてありがとう』』とか言われると、良かったなって思います。」と矢田さん。「本物志向」の到来に向け、着々とその腕を磨いていると感じました。

### これからは「人」

このように、時代が大きく変わるなかであるからこそ、今以上に「人」の存在が大きくなると宮井社長はいます。「これからもっと会社のファンを作っていくと。だから営業も出来て、仕事も出来る人が必要なんです。そういう人を育てるには、お互いに我慢ですよ。ダメなものはダメと言うこと、判断に迷った場合は皆で考えて、方向を定める。まさに民主主義ですよ。」懐深い宮井社長の想いに対して矢田さんを中心に、社員の皆さんがそれを受け止め、これからの切り拓いていく、同社のこころざしを感じました。



代表取締役 宮井 修さん

#### 株式会社 ミヤイボデー

業種 自動車車体整備  
創業年 1978年6月  
資本金 1,000万円  
代表者 代表取締役 宮井 修  
社員数 11名  
所在地 板橋区舟渡3-19-4  
電話 03-3965-8830  
<http://www.miyabody.com>



株式会社 ルケオ  
(光学製品製造・販売)

あえて、中小企業に飛び込んだ。人と人の温もりのあるコミュニケーションを取りながら、しごとがしたかったから。

### 「中小企業に入りたい」

株式会社ルケオは、高性能な偏光板や波長板を製造・販売する会社です。偏光板、波長板は研究用など専門性が高い顕微鏡に使われ、また、天文の観測機器などにも使われる製品ですが、一般には馴染みの薄い製品です。

今回お話を伺った高橋さんも入社当初はそんな感じだったようです。

高橋さんは、全く畑違いの建設関係の会社から10年前に転職してきました。入社を決めた理由は、「会社の雰囲気」だそうです。転職先を考えるなかで、「会社の写真を見て、なんか明るい会社なのかな」と感じて応募したそうです。

「前の会社は大きい会社で、人と人が喋ることがあまり無かったので、中小企業に入りたいな、少ない人数の中でその人たちと関係を築いて、密にやっていきたいという思いがありました。」

### 暖かいコミュニケーション

そうした理由で入社した高橋さんですが、コミュニケーションは好きではあるけれど、得意ではないと言います。そんな高橋さんですが、「ルケオに入ったら、いろんな人が声を掛けてくれて、



生産部 生産管理グループ主任 高橋 卓斗さん

すごいコミュニケーションの取れる会社だなあ、選んで正解だった。」「みんな興味津々で近づいて来てくれて、『前の仕事は何やってたの?』とか、『仕事、大丈夫?』とか声を掛けてくれる人もいて、暖かい会社だな。居心地がいいし、すごく自分に合っている。」と感じているそうです。

代表取締役社長の吉村さんは、「社内外でのコミュニケーションは大切だと思っていますので、最近はその間に力を入れています。去年は1年間、月に1回、2時間程度、パートさんも含め全社員でコミュニケーションセミナーをやりました。このセミナーで、皆が話しやすくなりましたし、基本的なことは学べました。」とのこと。高橋さんが感じた社内に流れる暖かいコミュニケーションは、こうした地道な取組が支えているのです。

### 先輩に感謝、お客様に感謝

高橋さんの入社後、最初のしごとは営業。文系出身の高橋さんにとって、光学製品を大学の研究者に対して営業するのは大変だったようですが、「最初は先輩の営業に同行させてもらい、どういう説明をするか生で見せて、それを参考に自分なりにアレンジしながら」経験を重ね、「何故こういう話をしたんですかって先輩に質問したりしながら少しずつ勉強していった。」とのこと。

それでも「本当、奥が深い。常に教えていただくという気持ちでお客様と接していました。」そして、「相手は博士や研究のスペシャリストです。分からないことは『分かりません、教えてください。』とはっきり言うようにしました。先輩の姿を見て、嘘だけは絶対につかないといつも心掛けています。」とまっすぐな目で語ってくれました。

このように先輩に育てられ、お客様に育てられた高橋さんは、「お客様の前に出るまでの先輩に感謝、出てからはお客様に感謝、それだけです。」



今の自分があるのは。」と感じているそうです。



### 「喜び」の横溢し

お客様と直に接する営業は、困難な注文に応えた時など、お客様に喜んでもらえて「やって良かった」と感じたそうです。一方で、「苦勞してお客様の希望に応えるものを作ってくれた工場の人たちに、お客様の『ありがとう』が伝わらないとモチベーションが上がらない。そこは営業がしっかり伝えることが大事。」と感じています。

高橋さんが、そう思うのは、お客様から難しい注文が来たとき、工場の方から「無理だよ。出来ないよ。」と言われると、営業は板挟みになって悩むことになるのですが、最後には「間に挟まれている、私がかわいそうと思ってくれたんだと思います。営業が困っているから工場でなんとかしよう頑張ってくれました。」それとは逆に「工場が困っているから営業が何とかしよう。」ということも経験し、お互いが助け合う会社、仲間意識の強い会社だと感じるようになったそうです。

今、高橋さんは、営業を離れ、資材調達のごとを任されています。調達先の多くが職人さんのため「ここでも、『分からないので教えてください』から始まり、少しずつコミュニケーションを増やし、良い関係を築けてきています。電話をすると、以前は『後にしてくれ』でしたが、今は色々教えていただいて日々勉強になっています。」

### ゆっくりと丁寧に人を育てる

これまでを振り返って高橋さんは、「ゆっくりと丁寧に育てていただき、感謝しています。」また、そうした中で「話せる仲間ができた。それも

慣れ合いで失敗を隠すわけではなく、お互い駄目なところは言い合える、そういう仲間が社内外に築けたのはすごく良かった。」と感じています。

社長の吉村さんは「私も色々憶えるのに時間がかかるタイプなので結果を焦らない。皆さん色々な事を思いながら、考えながら、私自身も含め成長しますので、そういう環境を提供することが大事だと思います。結果を焦っていい事はない。」

そうしたルケオの企業理念は「働きやすい職場から、お客様のニーズに合った製品を積極的に生み出し、社会に貢献する」です。同社にとって、働きやすい職場とは、「社員同士でコミュニケーションが取れていること」であり、そういう環境は「お客様のニーズのここを取り入れて製品開発していこうよ」といった発想が溢れ、これを集めて、新しい技術を生み出していけるのだと言います。そしてそれを支える「向上心がある人、勉強していく意欲がある人、そういう人を一番に求めています。」

最後に吉村さんは「皆にやりがいがあって、生きがいがあって、働きがいがある安全安心な場を提供出来たらすごく嬉しい。」と、会社の未来をにこやかに語ってくれました。



代表取締役社長 吉村 健太郎さん

#### 株式会社 ルケオ

創業年 1986年9月

業種 光学製品製造・販売

資本金 4,000万円

代表者 代表取締役社長 吉村健太郎

社員数 38名

所在地 板橋区大山金井町30番9号

電話 03-3956-4111 (代表)

<http://www.luceo.co.jp/>



## あなたは何故、『職業訓練』するのですか？

### はたらき始めるということ

あなたが、明日からはたらき始めるとします。それは、恐らく、小学校に入学した時以来の大きな環境の変化になるでしょう。

それまでは、誰かの経済的、精神的、様々な援助のもとで生活してきましたが、しごとを始めるということは、基本的に、そうした様々な援助から卒業し、自分一人の力で生きていくということになるからです。

これは、本当に大きな変化です。アルバイトをしていた人でも、その大きな変化に最初はとまどいを感じたりすることも多いでしょう。でも、誰しも、いつかは自立してはたらき、自分の手で自分の生活を支えていかなければなりません。

そうした大きな変化の中に、いきなり飛び込むことも大切です。そうした経験があなたを成長させることでしょうし、そのうち、そうした変化も気にならなくなるでしょう。

しかし、中には、そうした大きな変化の中にいきなり飛び込む前に、準備期間を持ちたいと望む人も多いと思います。

### あなたを磨く場所 職業訓練

そうした人には、是非、職業訓練をお勧めします。なぜなら、職業訓練は、あなたがやりたいしごとに就職するために必要な技能や技術を学べるだけでなく、職業人としての心構えや、考え方、



しごとに対する姿勢なども併せて学ぶことができるからです。

いわば、職業訓練は、就職することに不安のある人が、十分な準備をするためにある行政のサービスです。

これまでも、多くの方が職業訓練を経て、自分に自信を付けて就職し、自然な形で職業生活を始め、様々な業種の企業で活躍しています。つまり、職業訓練とは、あなたを磨く場所なのです。

就職という大きな変化に不安がある方は、職業訓練という選択肢も検討してみてください。

### 「職業訓練」とは？

公共職業訓練とは、文字通り行政機関が、しごとを探している人に提供するサービスです。

2年から半年の期間に様々な職業訓練を受講することができます。2年、1年コースは有料、半年コースは無料で受講できます。ただし、作業着や教科書は自己負担となります。（作業着を必要としない科目も多くあります。）

都内に12か所の職業訓練を提供する施設「職業能力開発センター・校」があり、受講を希望する方は、最寄りのハローワークか、各職業能力開発センター・校にご相談ください。

職業訓練を受講することで、しごとに不安のある方も、自信を持って就職することができます。  
あなたの挑戦を待っています。



## あなたを磨く場所 ひとつ、ひとつの 職業訓練ストーリー

職業訓練は、あなたを磨く場所です。



ここでは、東京23区の中央部と北部にある4つの施設で実施している職業訓練を紹介합니다。4つの施設とは、

- ・中央・城北職業能力開発センター（文京区後楽）
- ・中央・城北職業能力開発センター 高年齢者校（千代田区飯田橋）
- ・中央・城北職業能力開発センター 板橋校（板橋区舟渡）
- ・中央・城北職業能力開発センター 赤羽校（北区西が丘）

それぞれ特徴ある職業訓練を実施しており、全部で24科目あります。きっとやりたいしごとに就職するためにあなたを磨く訓練を受けることができるでしょう。



ここから先は、そうした訓練を今、受講している生徒の皆さんが、訓練を受けることになったきっかけや、訓練のやりがい、苦勞などを存分に話してくれます。

さあ、職業訓練の世界に触れてみてください。しごとに不安のあるあなたも、きっと自信を持って就職し、職業人として活躍できるでしょう。



中央・城北職業能力開発センター  
OAシステム開発科

自分の適性、やりたいこと、ずっと考えてきた。その答えがIT。一生学び続けて時代にキャッチアップできる軸ができた。

OAシステム開発科は、コンピュータをビジネスで利用するためのソフトウェアを作るプログラマーを目指す人の訓練です。

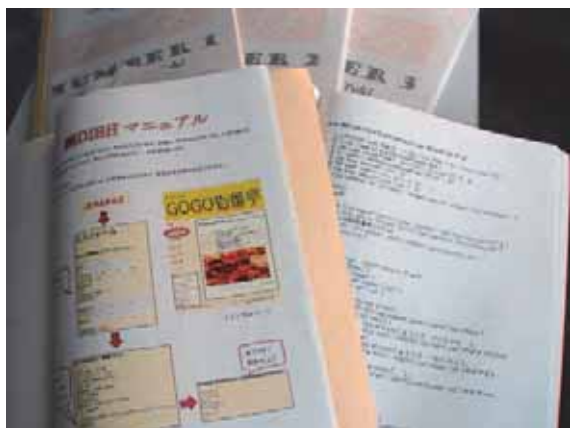
プログラミング言語（C言語・Java）で、業務用ソフトウェアの開発を学びます。OS・データベース・ネットワークなどの知識を習得します。

職業能力開発センターに入校するまで

OAシステム開発科の生徒さんにお話を伺いました。

「自分は、ITとは異なる分野の専門学校を卒業した後、しばらくハローワークで相談に乗ってもらっていました。その中で、どういう職種が向いているのか、自分の思考を調べる検査があって、技術職が向いているという結果が出ました。そこで自分の視野に入ってきたのがIT。その業界で就きたい職業は何があるか調べたら、プログラマーやSEという仕事があったという感じです。」

その次に考えたことは、「IT業界を志すとして、会社に入ってから学ぶか、学んでから会社で働くか、その二通りを考えたんですけど、ハローワークの方に、職業訓練を教えてください、中央・城北職業能力開発センターに通うことになりました。」「自分の性質として、学びながら働くより、知っている状態から働き始めた方が、続けていきやすいと考えました。」とのこと。



OAシステム開発科の生徒作品

訓練は難しいけれど、しごとの軸が出来た

訓練の内容については「これまでに、学校でも勉強はしたんですけど、全然違うので、最初は率直に言って、難しすぎてやっていけるのか不安になりましたが、今はなんとか・・・。」とのこと。

一方で「この業界に関しては、一生学び続ける必要があると思います。これから先、仕事をしていく上で新しい技術が出てきた時、『この話聞いたな』とか、自分で調べる取っ掛かりを得ました。もし、ここに通っておかなければ自力で勉強しても難しかったらうな。」とも。業界の今後、自分の未来を見据えながら、訓練を通じて、職業人としての軸が見えてきたようです。

さらに先の将来を見据えて

「2020年から学校教育にプログラミングが組み込まれます。こうした次世代の人が出てきた時、知っているのと知らないとの差は、本当に大きいと思います。自分はここでプログラミングと論理的思考を学んだので」将来にもしっかりとキャッチアップできると考えているようです。

これまで、自分の適性ややりたいことを真剣に考え、ITを見出した彼は、訓練を通じて、すでに職業人としての軸を作り、さらに将来を見据えたビジョンも見えてきているようです。

OAシステム開発科の概要

定 員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある  
求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：コンピュータをビジネスで利用するための  
ソフトウェアを作るプログラマーを目指します。



中央・城北職業能力開発センター  
パソコングラフィック科

私のデザインした作品が多くの人たちに  
使ってもらえる。それは本当に嬉しいこと。  
作り上げる喜びを感じました。

パソコングラフィック科は、ポスターやカレンダー等を MacOS と WinOS で制作できる DTP オペレーターを目指す人の訓練です。

DTP 関連職種に就職するために必要な訓練を行います。また、デジタルカメラによる撮影、パソコンによる画像処理、レイアウト等の紙面構成の技術を学びます。

作り上げる喜びを感じた。

パソコングラフィック科のアハメッド・エリカさんにお話を伺いました。

パソコングラフィック科では、毎年、グループでカレンダーのデザインを考え、制作し、校内のコンテストで評価が高い作品を、イベントなどで都民の方々にお配りしています。アハメッドさんは、このコンテストに入賞し、自分の作品が配られることになりました。「イラストがたくさんで、色とりどりで可愛く、1年飾っても飽きが来ないデザインにしました。」とにっこり。

自分の作品が、多くの都民のお宅に飾られることについて、「すごく嬉しくて、自分の作品を使ってくれる方がいるんだなって思うと、『作るって楽しいな』って思いました。」



パソコングラフィック科 アハメッド・エリカさん  
手に持っているのが、ご自身が制作したカレンダー

そういうアハメッドさんですが「これまで作るってことに関わりがなく、関わりたいと思ってこのセンターに来たんですけど、初めて作り上げる喜びっていうのを感じることができました。」

雰囲気の良いクラス

訓練について、「あーやだーって思う時もあるんですけど、その都度助けてくれる人が必ずいるので、くじけることなく楽しくできてます。」「クラスの仲間との出会いが良かったなって思っています。すごく明るくて、皆優しく、でもこだわりの強い方が多く、皆一所懸命やるんですけど、でも雰囲気が悪くなることはない。一所懸命やるのに、雰囲気がいいってところがすごく良いなって思っています。色んな人と関わることで得られたものは大きい。」とアハメッドさん。

皆が幸せになるものを作りたい。

将来作りたいものについて伺うと、「高校とかで行事があるたびに、写真付きの思い出パンフレットを作ってくれました。思い出を形にできるのは楽しそうだな、作ってみたいなと思います。」

些細な出来事にも喜びを見出すアハメッドさん。彼女が作るもので人々が幸せになる、そんな日が来るのは、遠い将来ではないと感じました。

パソコングラフィック科の概要

定 員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：ポスターやカレンダー等を MacOS と WinOS で制作できる DTP オペレーターを目指します。

中央・城北職業能力開発センター  
グラフィック印刷科

目指したいところに到達できるよう、  
前進していきたい。印刷機オペレーター  
は一生学び続ける奥の深いしごと。

グラフィック印刷科は、オフセット・オンデマンド印刷機で印刷物を刷るオペレーターを目指す人の訓練です。

オフセット印刷機の操作を主体に学びます。印刷機の操作をはじめ、原稿作成（DTP 基礎作業）から刷版（CTP）までの工程、材料や品質管理の知識技能を習得します。

入校前のしごとも印刷関係でした。

グラフィック印刷科の生徒さんにお話を伺いました。

入校の経緯について、「単色機を18年、別の会社で2色機を13年と、印刷の仕事をやっていたのですが、4色機のオペレーターを目指したくて、今年退職しまして、今こちらでお世話になっています。」と教えてくれました。

印刷における豊富な経験があれば、4色機をマスターすることは、未経験の人に比べて容易なことではないかと伺うと、基礎的なことを知らなかったことに驚かされる毎日だといいます。特に2色機については、転職先で初めて担当したため、「即戦力として求められましたので、基礎的なことは教わずに、ともすれば同じ作業を繰り返すための方法だけ教わって、今、訓練で教えてもらっている基礎的なことは飛ばされてしまっ

ていますので、13年間知らないまま来てしまったことに気付くことが多く、驚いています。」と。

同じスタートラインに立っています。

未経験の生徒ともその差はないといいます。「前職で使っておりました機械と、訓練で使う機械はまるで違いますので、その点では、未経験の方を含め、他の方々と同じスタートラインなんです。むしろ別の機械をずっと扱って来て、それが体に染み込んでしまっていますので、新しい技能を習得しようすると、それを邪魔することがあります。若い方は、本当に飲み込みも早く、そういう様子を見ていますと、焦りと、自分ももっと頑張らねばという気持ちが日々湧きます。」とのこと。

常に前進していきたい。

「人生限りがあるものですので、なるべくなら生きていくうちに目指したいところにどんどん到達できるように、前進していきたい。目標に向かって一心に頑張りたいという気持ちを持ち続けることが、一番いいのかなと思います。」

印刷機オペレーターは、一生学びつづける奥の深いしごと、やりがいのあるしごとであることが理解できた貴重なお話しでした。



グラフィック印刷科で使用している4色機

グラフィック印刷目の概要

定 員：年間60名

訓 練 期 間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、10月（各30名）

訓 練 概 要：オフセット・オンデマンド印刷機で印刷物を刷るオペレーターを目指します。



中央・城北職業能力開発センター  
メディアプロモーション科

メディアプロモーション科は、印刷メディアやWeb等のデジタルメディアのプロモーションに必要な知識・技能の習得を目指す人の訓練です。

各種メディアの企画・提案・制作、生産部署へ作業依頼ができるよう知識技能を習得します。

その日のうちに使えるようになってる

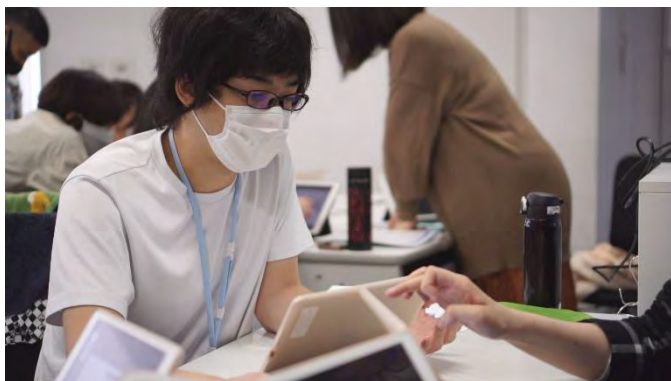
メディアプロモーション科の千尋さんにお話を伺いました。

千尋さんは「iPadを触ったのも初めてだったんですけど、教わったことがすごく実践的なので、その日のうちに使えるようになってるんですよ。すごく進みが早いというか。」と満足そうです。

また、「難しいことを教えてくれているんですけど、すごく噛み砕いて説明してくださるんですね。とてもわかりやすいので早く吸収できます。」と意欲的です。

これだったらどこにでもいけるだろう

千尋さんは、ものをつくる仕事がしたいという思いを持ちながらも、形が漠然としたまま見学会に参加し、不安のなか質問をしました。「いまの時点で、こういうことがやりたいというのが決まっているんですが、まだそれが漠然としていて、はっきり『これがやりたいです。』と言い切れなく



メディアプロモーション科 千尋 航宇輝さん

**一点特化ではない。  
だからこそ教わったことを繋げ、  
応用していくと、どこにでもいける。**

でも、大丈夫でしょうか」と聞いたところ、「勉強しながら方向性を固めていけば大丈夫ですよ。」という話を聞いて入校を決めたそうです。

入校してからも、メディアの基礎知識、企画、プレゼン、ツールの扱いなど様々なことを学び、「これだったらどこにでもいけるだろう。」と感じたということです。

「応用がきいて、いろんな方向に行けるかわりに、自分で何も考えずに授業を受けるだけでは吸収が減っちゃう。指標はもらえるけれども、あくまでも自分で考えて進むのを常にし続けられない科目なのかな、と思います。」

印刷だけでなく、様々なメディアを柔軟に組み合わせ、ときに異業種とも幅広くコラボレーションするのがメディアプロモーション科の特長です。

人の心に残るように

「広めたいと思うものは他人の目にとまらないという意味がない。一時的なブームとかでバツと広がって終わっちゃうのではなく、恒久的に必要なだって思って大事に使ってもらえるようなものが企画できたらいいなって。人の心に残るような、そういう感じです。」と力強く語ってくれました。

千尋さんがプロモーションしたものを私たちが目にするのも、遠い未来ではないと感じました。

メディアプロモーション科の概要

定員 : 年間60名

訓練時間 : 6か月

入校対象者 : 現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期 : 4月、10月(各月30名)

訓練概要 : 印刷やWeb・動画・SNSなどのデジタルメディアについて、顧客のニーズにマッチした企画・提案ができる知識技能の習得をめざします。

中央・城北職業能力開発センター  
DTP科

本が好き。好きな本を作るなら、クライアントの依頼に120%の出来栄で応えるプロになりたい。

DTPとはDesktop publishingの略で、印刷機に使用できるデータをパソコンで作成（組版）することです。

DTP科では、Windowsを使用し、書籍や雑誌・マニュアル等を組む知識・技術を習得し、DTPオペレーターを目指す科目となっています。

知っていたつもりだった。

DTP科の生徒さんにお話を伺いました。

入校の経緯について「前職は、イラストレーターやフォトショップを使って、お店のPOPを作る仕事などをしていました。ただ、インデザインが使えないために、出来る仕事の幅が限られていたんですね。ということで、仕事の幅が狭まってしまふのが自分でも悔しく思っていて、それであれば基礎からDTPを学んで、これからの仕事に役立てたいと思って志望しました。」

ところが訓練が始まると「イラストレーターとフォトショップは仕事で使っていたので、それほど苦労しないだろうと高を括っていたんですが、機能を全然知らないことを実感しました。」とのこと。今はしっかりと身に付いてきています。

本が好き

訓練修了後の就職については「可能であれば、本や雑誌などを作る仕事に携わりたいと思っています。もともと趣味で俳句や短歌の同人誌を自分で作ったりして、本を作ることが好きなことありまして。」とのこと。ただ、以前は本の装丁に目が行っていたけれども、訓練を始めて、中身にも目が行くようになったといいます。「読みやすいものは、よく計算されているなという風を感じるようになりました。」と、職業訓練は就職のための訓練ではあるのですが、個人の生活の質を変える場合もあるのでしょうか。



DTP科の訓練の様子

120%の出来栄で応えるプロになりたい

今後の訓練と、将来の夢についても教えていただきました。「まず、訓練期間内にインデザインをマスターしたいと思っています。そして自分一人の力で冊子などが作れるようになったらいいなと考えています。」とのこと。

また将来は「クライアントの依頼に120%の出来栄で応えるプロになりたいなと思っています。与えられた以上に自分の頭で考えて、より良いものを作る人になれたらいいなと思いますし、可能であれば、自分自身もオペレーションできて、職場で自分の腕を磨きつつ、会社にも貢献できる人になりたいなと考えています。」と力強くお話しをしていただきました。

DTP科の概要

定 員：年間60名

訓練期間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、10月（各30名）

訓練概要：WindowsPCを使用し、書籍や雑誌のデータを作成するオペレーターを目指します。



中央・城北職業能力開発センター  
介護サービス科

介護は一生の仕事。ホスピタリティ溢れる人たちと支え合いながら訓練し、介護のしごとを目指す。

介護サービス科は、介護職としてはたらくために必要な知識技能の習得を目指す人の訓練です。

様々な人と関わるために必要なコミュニケーション能力の養成や、被介護者の生活の質の向上を目指した介護のあり方、また余分な力を使わない介護技術を習得します。

介護は一生の仕事

今回お話しを伺った介護サービス科の守口さんは、入校して2カ月、クラス委員を務めており、訓練にも慣れてきたところだということです。

そんな守口さんが、介護の訓練を受けようと思ったきっかけについて、「前職は普通の会社員だったんですけど、今後一生仕事をしていくって考えた時に、ある程度の年齢になっても活躍できる介護の仕事っていうのにすごい興味を持つようになって、志望しました。」とのこと。

ただ、介護のしごとは自分の心身への負担など、色々と大変だと言われています。これについて、「社会的に見ると一部では、その通りだと思うんですけど、今後、国全体の問題として大きく改善されていくのではないかという予測はあるので、今は辛くても、今後の改善に期待しつつ、介護の仕事に取り組んでいきたいと思っています。」と前向きな思いを語ってくれました。



介護サービス科 守口 光一さん

クラスの運営もホスピタリティ

守口さんは、クラス最年少です。周りが全員年上という環境については、「色んな年代の人がいて、中にはお母さんぐらいの方もいるんですけど、普通に仲間っていう感じでやっています。」「訓練をやっていく中で、自分に自信がなくなったりする事もあるんですけど、そこは皆で協力して、仲間と支え合って頑張ってるんですよ。」とのこと。

介護のしごとを目指す人たちだけに、支え合いの気持ちは大切なこと。守口さんは「皆さん、ホスピタリティが溢れる人たちなので、私自身もそういったホスピタリティ溢れた人間になることを目指しています。」と語ってくれました。

普通の介護

守口さん、将来的には介護福祉士など福祉関係の資格を取りたいと考えています。そうした守口さんが理想とする介護とは、「普通に生活している環境でサービスが提供できるような、介護サービスが特別な存在じゃなくて、普通に、普通の家族の一員のような、そういった感じでいられたらなと思います。」

普通の介護、それは介護における理想の姿でしょう。守口さんは、その理想を目指して、その一歩を踏み出したところです。

介護サービス科の概要

定 員：年間60名

訓練期間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、7月、10月、1月（各月15名）

訓練概要：介護職としてはたらくために必要な知識技能の習得を目指します。

高年齢者校  
和装技術科

子どもの頃から着物が好き。和装技術との出会い、人生の先輩たちとの出会いで、自分が成長したと感じます。

和装技術科は、和装に必要な用具ならびに材料の性質及び用途に関する知識や縫製の技能を習得するほか、和装全般の加工・販売・着付等の幅広い知識・技能の習得を目指す人の訓練です。

子どもの頃から着物が好き！

和装技術科の福泉さんにお話を伺いました。入校のきっかけは「祖母が着物が好きで、縫っていましたし、私も幼い頃よく着せてもらったので、それが理由ですね。それと、今は縫ってないんですけど、祖母に着物を作ってあげたいなと思っています。」とのこと。

お婆さんにどんな着物を着せてあげたいかを伺ったところ「結構派手なものが好きなので、一緒に反物とか見に行き、選びたい。」と。早く技能を身に付けて、就職するとともに、大好きなお婆さんに着物を作ってあげてほしいと思いました。

最初は辛かった。今は頑張れる！

「私、高校卒業してすぐ来た(入校した)ので、まだ社会にあまり馴染めてなくて、でも周りの人たちは、皆それなりに社会を経験してきている人たちなので、その人たちの中でやっていくって

うのはとても難しいし、どうしてもついていけない部分もいっぱいあるし、憶えも悪いんですけど、そこは何回も根気強く聞くというか、先生たちもいるし、今も厳しいって言えば厳しいけど、頑張れるかって聞かれたら、今は頑張れると思ってます。」とまっすぐ前を向いて語ってくれました。

福泉さんは、和装技術の技を学ぶとともに、社会人としての学びも得ているようです。「入った頃、同年代の人がいないのが、結構辛かった時期もあったんですけど、年上の方々が支えてくれて、安心したっていうか、楽になりました。今も声を掛けてくれたりとかしてくれるので楽しいです。」また、周りの友達からは『『少し大人っぽくなったね』とか結構言われます。』とにっこり。

外国人にも似合う着物を作りたい。

福泉さんは「ここに入る前は着物の販売をしたいと思ってたんですけど、訓練していくにつれて、和裁所に入りたいと思うようになっています。」と、そして「日本人だけじゃなく、海外の人にも着てもらえるような着物を作りたい。」と夢を語ってくれました。

福泉さんが作る着物が、多くの外国人に愛される、そんな日が来るのも、そう遠くないかも知れません。



和装技術科 福泉 陽菜さん

和装技術科の概要

定 員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：和装に必要な用具・材料の性質・用途に関する知識・縫製技能を習得、和装全般の加工・販売・着付等の幅広い知識・技能の習得を目指します。



高年齢者校  
内装施工科

職人は日々成長。とことん前に進んで、ずっと成長していかないと。だから終点がない。自分は死ぬまで職人でいたい。

戸建、集合住宅を問わず、全ての住宅や建築物には内装工事が不可欠です。内装工事を行う際には、床・壁・天井に様々な材質、色、柄の仕上材料を用いて内装仕上げを行います。

内装施工科は、内装仕上工事に関する基礎知識・技能の習得を目指す人の訓練です。

家業は内装業、職人はカッコいい

内装施工科の岡崎さんにお話を伺いました。

岡崎さんの実家は、内装施工業を営んでおり、自身も、訓練を始める前、半年ほどおじいさん、お父さんについてしごとをしていたそうです。そんな岡崎さんが内装施工の訓練を受けよう思ったのは、「自分はクロスがやりたいなって思って。職人は基礎ができてないとどうしようもない。」と感じたからだそうです。

岡崎さんは、内装施工のなかでも、クロスを中心にやっていきたいとのこと、「父親がクロス方で、小さい時から父親の姿を見てきて、『あぁいいな』みたいな。大工さんでも、鳶さんでも職人全般がカッコいいですね。『力あっていいじゃん憧れる』みたいな（笑）」

半年のしごとの経験と訓練の違いについては、「肉親なんで、軽く教えられた感じがして、訓練はやっぱり違うなと思いました。本当基礎から学

ぶと奥深いなって思いました。」

内装施工科は、シニア層も多いなか、岡崎さんは、クラスの委員長で、現場経験者。委員長はやりにくいのではと聞いてみると、「皆さん優しく、話しやすいです。それに『ここ教えてくれない?』とか言われますけど、そこはちゃんと教えてます。」と最年少の頼れる委員長です。

また「訓練は上下関係とかそういう礼儀の部分でも学べる。自分的にはすごい成長できると思います。」とのこと。

心の広い、大きな職人になりたい。

岡崎さんに、将来どんな職人になりたいかを聞いたところ、「心の広い、大きな職人になりたい。小さくてすぐ怒ったりするとダメなんで。職人は横の繋がりが大事なので、そうすると応援とか頼まれるし、そういうところを大事にしていきたいと思います。」家業については「いずれは大きくしたい。若い人たちがいっぱい雇って、その人たちに教えながら、楽しく現場ができたらいいなっていうのはあります。」とすでに明確に、将来を見据えています。

「死ぬまでクロス屋でいたいですね。自分は。職人は日々成長ですね。やるからには真剣に、軽く見ないで、一所懸命に集中して、とことん前に進んで。だから終点がないってことですね。」ここ内装施工科で「本物」の職人が育っています。



内装施工科 岡崎 蓮さん

内装施工科の概要

定 員：年間60名

訓練期間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、10月（各月30名）

訓練概要：内装仕上工事に関する基礎知識・技能の習得を目指します。

高年齢者校  
ビル管理科

訓練は試験の連続で、怒涛のよう。でも、ビル管理のしごとは楽しいし、奥が深い。これからも知識と技能を高めたい。

建物維持管理に必要な電気・冷暖房・給排水・空調・消防設備等の知識と技能を習得します。

在学中に関連資格免許として二級ボイラー技士・第二種電気工事士・第三種冷凍機械責任者等の取得を目指す人の訓練です。

ビル管理のしごとは面白い。

ビル管理科の大塚さん、尾辻さんのお二人にお話を伺いました。

お二人は、修了を間近に控えており、半年間を振り返って「最初はゆったりだなと思ってたんですけど、10月・11月は怒涛のようでした。試験づくめ。」と尾辻さん。「10月から後はあんまり記憶がないです。怒涛すぎて。」と大塚さん。

お二人がビル管理科の訓練を受けようと思ったきっかけは、「もともと、二人とも学校の用務員やってまして、施設管理も多少は心得てたし、興味があったので、勉強できればなと思って。」と尾辻さん。用務員の経験があるとはいえ、用務員では設備・機械の操作はほとんどしないのでは、と伺うと「用務員は、機械操作はしなないです。ただ、学校に来られる電気工事・消防点検など業者の方をそばで見ているので、私ももうちょっと知識と技術を身に付けて、設備の管理をしたいと思っ

て。」と大塚さん。そして、お二人とも口を揃えて「建物が好き。」とのこと。

チームワーク

男性が多い訓練科目ですが、「周りが男性ってことに違和感はなかったです。」と大塚さん、「そんじょそこらの男性より強い。」と尾辻さん。

範囲が広くて「こんなに勉強しなきゃいけないの」と思った試験対策では、「先に試験を終えた人がテキストをくれたり、『ここが出るよ』と教えてくれたり、みんな自分だけっていうわけじゃなく、チームワークで乗り切ったとのこと。「みんな頑張っていて、引っ張られたというか、押された」という、いい雰囲気だったそうです。

これからの展望

修了後の就職先についてはお二人とも決まっているそうです。今後の展望について、「用務員をやっている時には見えなかった全体像が、ここに来てやっと見えた。これからはここで得た知識・技能に肉付けしていくのかな。」と大塚さん。「少しでも社会の役に立てればなど、できれば自分の好きなことで。」と尾辻さん。大塚さんは「確かな判断力を身に付けられれば、自信を持って生きていけると思うので、そういう人になりたい。」とにこやかに語ってくれました。



左 ビル管理科 大塚 和子さん  
右 ビル管理科 尾辻 典子さん

ビル管理科の概要

定 員：年間60名

訓 練 期 間：6か月

入校対象者：おおむね50歳以上で求職中又は転職希望の方

入 校 時 期：7月、1月（各月30名）

訓 練 概 要：建物維持管理に必要な電気・冷暖房・給排水・空調・消防設備等の知識と技能を習得します。



高年齢者校

ホテル・レストランサービス科

講師も訓練に使う器具も一流。訓練を通じて、一流のサービスとは何かが分かってきました。それは自分の人生観も変えました。

ホテル・レストランサービス科は、ホテルやレストラン等で、フロントサービスに従事する人材を養成します。サービス業務に必要な接客の知識・技法、またレストランや宴会場でのテーブルセッティングや飲料サービスの技法、さらにホテルにおけるフロントや客室整備の業務に必要な知識・技法を習得する訓練です。

訓練は結構ハードです。

ホテル・レストランサービス科の加須屋さんと前田さんにお話を伺いました。

お二人とも前職は事務系のしごとだったそうです。前田さんは「定年後は今までとは違った仕事をしてみたいと思っていたから」、加須さんは「自分がサービスする側に立って、ちょっと裏を覗いてみたいなという感覚で」それぞれ応募したそうです。

お二人とも、訓練を少し軽く考えていたようですが、「先生が一所懸命で、私やっつけていけるんだろうかと思うくらい熱心に教えていただいています。」と前田さん。「毎日が無我夢中で、憶えることが多すぎて、しかも色んなことを同時進行でやらなければならないので、想像していたよりも厳しいし、大変だと思います。」と加須屋さん。



左 ホテル・レストランサービス科 加須屋 久子さん  
右 ホテル・レストランサービス科 前田 路子さん

一流の講師・一流の用具

加須屋さんは、講師が全て一流ホテルの社員であることに、前田さんは食器が一流のもので、訓練の時に失敗してもしようがないと言われたことに驚いているそうです。そして「こんなに力を込めて教えていただけることは素晴らしいことだなと思いますね。受ける私たちは感謝しなきゃいけないと思っています。」「充実した施設と設備があるところで学べるというのは、本当にラッキーだなと思います。」とのこと。

人生観が変わった。

お二人は入校選考の時、「オリンピックに関わる仕事をしてみたいよね。」と話しをしていたそうです。今、訓練を受けながら、ホテルの経理、フロント、レストラン関係と、就職先について色々と模索中とのこと。

ただ、訓練を受けるようになって、「一流とは何かが分かってきた。今までとちょっと違った生活、いいものを見て、自分を鼓舞したり、気持ちを充実させることの大切さを感じている。」と言います。お二人にとって、ここでの訓練は、第二の人生の行く先だけでなく、人生観も少し変えていったようです。

ホテル・レストランサービス科の概要

定 員：年間60名

訓 練 期 間：6か月

入校対象者：おおむね50歳以上で求職中又は転職希望の方

入 校 時 期：4月、10月（各月30名）

訓 練 概 要：ホテル・レストラン等でフロントサービスに従事する人材の養成。サービス業務に必要な接客の知識・技法、レストランや宴会場でのテーブルセッティング・飲料サービスの技法、ホテルにおけるフロントや客室整備の業務に必要な知識・技法を習得します。

板橋校  
自動車車体整備科

訓練に年齢は関係ない。年下の同期に助けられて訓練する毎日。感謝し尊敬している。このことはもう一つの学び。

自動車車体整備科は、1年次に3級自動車整備士に関わる構造、整備法、法規などを習得し、2年次には車体の構造と機能、板金、塗装、フレーム修正について習得する2年間の訓練です。

僕、実は車すごい嫌いなんです

自動車車体整備科、1年生の川鍋さんにお話を伺いました。

川鍋さんは、前職を11年ほど勤めた後、入校。「5年位勤めると、一生働いていくってことを考えて、仕事にやりがいを求めるようになりまして、とはいえ、年齢的に限りがあるので、そういった中で仕事を探してました。その時たまたま仕事の中に追突事故に遭いまして、損害調査という仕事があることに気が付きました。ここでは整備士3級と板金塗装が学べるということだったので、チャレンジすることにしました。」とのこと。

川鍋さんの場合、自動車車体整備自体をしごととするのではなく、損害調査のしごとに整備士の資格などが活かせるという、自身の年齢のことも考慮した就職を考えているそうです。

実は川鍋さん「僕、車すごい嫌いなんです(笑)、本当に生きていくために訓練に来ているんで、例えば僕が19歳の時に入校していたら、多分夏前には退校してたと思うんです。」ときっぱり。



自動車車体整備科 川鍋 稔さん

若い方たちに助けてもらっています。

もともと車が嫌いな川鍋さん、訓練について「個人的には実技に苦労している。」とのこと。そんな川鍋さんにとって、年齢が離れた、若い同期は頼もしい存在のようで、「皆さん若いので、未来を見ている人が多いし、覇気がありますし、ゆとり世代とか世間では言われているでしょうが、僕はそんな風には全然思えなくて、実技など助けていただいている、本当に感謝してますね。」  
「若い人は、先生が示した手本を1回見ただけで頭の中でイメージ出来て、1、2回注意を受ければ修正できる。僕の場合、5回6回と言われても頭に入っていない。実技では人の5倍やらないと追いついていけない。」と、時間外に出来る限り練習していることを明かしてくれました。

年齢は関係ない、若い人を尊敬できる

他の生徒との年齢差について、最初は不安があったという川鍋さん。7カ月経った今は「訓練に年齢は関係ないっていうのが答えです。同じ目標があるので。本当に仲間であり、尊敬できる。」といいます。川鍋さんにとって、訓練とは別の学びもあったようです。最後に「入校したことは間違いなかった。」とにこやかに答えてくれました。

自動車車体整備科の概要

- 定 員：年間30名
- 訓練期間：2年
- 入校対象者：おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方
- 入校時期：4月
- 訓練概要：1年次に3級自動車整備士に関わる構造、整備法、法規などを習得し、2年次には車体の構造と機能、板金、塗装、フレーム修正について習得する2年間の訓練です。



## 板橋校

### IOTシステム科

IOTシステム科は、モノを動かすつなぐプログラムや、センサー、LEDなどのハードウェアに関する知識を身につける科目です。タブレットを使用したインターネット通信を学び、モノとモノをつなぎ制御する技術や、電子回路やマイクロプロセッサなどのモノを動かすプログラミングの手法を学びます。

#### 休暇を使って発明を

IOTシステム科の橋本さんにお話を伺いました。

「高校の理工学同好会ではモジュールの組み立てなどをやっていましたが、IOTシステム科で内部のところまで勉強できたので、休暇を使ったりして発明というものを自分でできるようになりました。僕は小さいころからモノづくりが好きでしたが、『自分がやっている作業を自動化したい』なんて人にはおおすすめの科目ですね」と楽しそうに話してくれました。

#### 授業で鍛えられた思考力

一緒に訓練している仲間については、「視野が広い先を見ている人が多いと思います。30代前半の



IOTシステム科 橋本 祥行さん

**なにか新しいもの、インターネットで物を動かすもので、まだないものを作っていきたい。**

人がいるので、一度社会に出ている人と一緒に過ごしていると、自分がどうなりたいかということにも考えが及んで、僕にとってはかなりいい環境でした。」

授業がすごく面白いと言う橋本さん。「問題をしっかり頭において作業を進めていく能力が鍛えられました。それと、わからないもの自体がわからないってときもありましたが、できている段階というものをしっかり把握して積み上げていくという思考が鍛えられました」「授業の最初にけっこう高度なプログラミングをやらされたのですが、最近になってあれをもう一度やりなおしたいな、という気持ちになっています」と話す橋本さんは自分の成長をしっかりと実感できているようです。

#### ITの総合格闘技

「IOTシステム科はITの総合格闘技です。ですから、ITはやりたいけどどの部分に自分の興味があるかわからない方、なんでもかんでも自分でやりたいって人には本当におすすめです」と熱く語ってくれた橋本さん。橋本さんの発明品とどこかで出会える日が待たれます。

#### IOTシステム科の概要

定員 : 年間30名

訓練時間 : 1年

入校対象者: おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方

入校時期 : 4月

訓練概要 : 家電や自動車などに用いられるモノをインターネットにつなげるIOTシステムの知識技能の習得を目指します。

板橋校

ネットワークプログラミング科

必死にしがみついて勉強した。ある一点を越え  
るとすんなり理解できるように。将来は社会  
の根幹を支えるシステムに関わりたい。

ネットワークプログラミング科は、ネットワークを利用してパソコンを便利に使う仕組みを作れるように、C言語でプログラミングの初歩を、Java言語で応用的なプログラミングを習得。また、ネットワークの理解を深めるため、ネットワーク構築及びサーバプログラムの設定を実習する訓練です。

ネットワークはビジネスのベース

ネットワークプログラミング科の長谷川さんにお話を伺いました。

長谷川さんは「幼い頃からパソコンに触る機会があったのですが、前職で転職を考えた時に、この際、手に職を付けたいなと思い、では何が一番自分に合っているのか、出来るのかと見渡して、一番身近にあったのがパソコンでした。とはいえ、何も知らない状態だったので、ここで1年間勉強して、経験を積んでから社会に出て、自分の力を試せたらよいと思い、入校しました。」とのこと。

また、IT系の科目の中でネットワークプログラミング科を選んだ理由として「ここで学んで、就職するにせよ、フリーで働くにせよ、ベースとなる知識はこれかなと思ったことと、未経験者でも可能ということだったので。」といます。



ネットワークプログラミング科 長谷川 徳孝さん

必死にやれば乗り越えられる。

こうして入校した長谷川さんでしたが「最初はかなり必死でした。聞きなれない言葉も多く、うちに帰って自分で復習して、やっと飲み込めるようになって、そこから少しずつ知識も増えて、やっと先生の話すすんなり理解できるようになりました。」とのこと。最初につまずいていたら、こうはならなかっただろうと言う長谷川さんは「つまずかなかったのは、必死にしがみついてやったから。折角こういう機会を頂けたので、無駄にしたくなかった。」とのこと。

社会の根幹に関わるシステムを構築したい

こうしてやってこれたのは、分からないところを教え合うなど、クラスの雰囲気良かったことも大きいといいます。

今、長谷川さんは企業から内定をもらい、4月からその会社に入社する予定とのこと。志望の理由は、会社説明会に来ていた社長の人柄と、他の会社と違い、将来の構想ではなく、実際に取り組んでいることが明確だったからだといいます。

4月からの活躍が期待される長谷川さん、「今は、インターネットで区役所等の手続きとかも出来るので、そういった社会の根幹を支えるシステムを作るプロジェクトに関われるような人間になりたい。」と真っ直ぐに答えてくれました。

ネットワークプログラミング科の概要

定員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：ネットワークを利用してパソコンを便利に使う仕組みを作れるよう、C言語でプログラミングの初歩をJava言語で応用的なプログラミングを習得。ネットワークの理解を深めるため、ネットワーク構築及びサーバプログラムの設定を実習する訓練です。



## 板橋校

### サイン・ディスプレイ科

看板を装飾する作業が好きだし、得意。  
自分の創作したものが、多くの人に見てもらえる。そんなしごとが私に向いている。

サイン・ディスプレイ科は、サイン（看板類）やディスプレイ（展示・装飾物）の企画、デザイン、製作、施工に関する知識や技術・技能を習得する訓練です。

#### 小さい頃からものを作るのが好き

サイン・ディスプレイ科の塚本さんにお話を伺いました。

塚本さんは「小さい頃から絵を描いたり、ものを作ったりするのが好きで、今でも、レジンを使ってストラップとか作ったりして」、「もともと自分の好きなことを仕事でも活かしたいなと思っていたので、ここで訓練できてとても良かった。」「高校卒業して、そのまま就職っていう流れより、自分的には手に職が欲しいなって思ってたんで、ここに入りました。」とのこと。

そういう塚本さんですが、「色々な訓練を受けた中で、私的には粘着シートっていうガラス面や看板などに貼るシートなんですけど、それを貼る作業が好きなんで、そういうものの施工の仕事に就ければと思ったりもしています。」とのこと。

「好きこそ物の云々」とはよく言いますが、シート貼りの作業について塚本さんは「プロッターっていう機械を使うこともありますけど、手切りでも



サイン・ディスプレイ科 塚本 仁美さん  
塚本さんが手にしているのが  
POPコンペティション出品作品

文字などを切り抜きます。結構友達からも『手切りうまいね』って褒められるので、すごく嬉しいです。」と語ってくれました。

#### 自己流で、可愛かったらいいかなって

化粧やおしゃれが大好きな塚本さん、10月に開催のPOPコンペティションでは、大好きな化粧品のディスプレイを出品したそうです。

ただ、「自分、数字とか計算とか苦手なので、図面を描いたりする訓練はとても苦労しました。基本、フィーリングでいくタイプなので（笑）」うまくいかないことがあっても「人に聞くのが苦手なんで、自己流で、まあ綺麗だったらいいかなって感じで、もうフィーリングでやっています（笑）」とのこと。そうした作った作品が「友達とかに『可愛い』とか言われると『よっしゃ！』って思います。」

#### 化粧品や洋服のお店の看板が作りたい。

修了後は、好きで得意な「看板を作る手前のシート作業ができる仕事に就ければ。」とのこと。将来、「自分がデザインし、作業した看板が化粧品とか洋服とかのお店に使われるといいなと思います。」そうすると「嬉しいし、『これ自分で作ったんだよ』って自慢したくなりますよね。」

塚本さんが作った作品がおしゃれな店のウィンドウを飾る日は、すぐそこまで来ています。

#### サイン・ディスプレイ科の概要

定 員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：サイン（看板類）やディスプレイ（展示・装飾物）の企画、デザイン、製作、施工に関する知識や技術・技能を習得する訓練です。

板橋校  
機械加工科

ここで学んだこと全てがしごとに活かせる。自分が学んでことを活かして、人に喜ばれるしごとがしたい。

ここで学んだこと全部が自分の武器

そうした経緯で機械加工の道に進んだ中林さんですが、高校の授業と訓練の差について「高校の授業と重複したのは、最初のほんの数カ月くらいで、後はほとんど新しいことばかりでした。」  
「多分会社に入ってから色々教えてもらおうと思うんですけど、ここで学んだこと全部が就職してから使える技術だと思っています。」とのこと。

また「基本的に加工している時って考えること、感覚を研ぎ澄ますことが多くて、汎用機はほぼ手作業ですし、加工を全部やってくれるマシニングっていう機械は、プログラムの組み方次第です。」と機械加工の魅力を語ってくれました。

人に喜ばれる仕事がしたい。

年1回開催している技能祭で、機械加工科は自分たちで作った電車にお客さんを乗せて走らせることをしたそうです。自分たちが作ったものを多くの人に見てもらったり、喜んでもらった経験について、「制作中は色々課題もあったんですが、それを解決して、お客さんを乗せたときは、すごい嬉しかったですね。」

こうした経験も含め訓練を積上げてきた中林さん、「自分が学んできたことを活かしながら、人に喜ばれるような仕事がしたい。」と、力強く語ってくれました。

1年8カ月、訓練は楽しかった。

機械加工科は、旋盤、フライス盤などによる加工の基礎から、マシニングセンタ等各種NC機械による精密加工法やCAD/CAMまで幅広い加工技術を習得します。2年次は機械加工技能検定2級まで。応用作業として、各種機械装置・治工具・金型の設計製作を目標とする訓練です。

機械加工科の中林さんにお話を伺いました。中林さんは、工業高校の機械加工科を卒業後、入校し、1年8カ月が過ぎようとしています。ここまでの訓練を振り返って「厳しかったっていうよりも、先生が色々経験を積んだ方が多いので、自分が知らないこととか、実践で使える技術とか教えてもらったんで、辛くは全然なかったですね。むしろ楽しかったです。」とのこと。

そもそも中林さんが数あるものづくりの中から機械加工を選んだ理由は、「一般の人から見て鉄ってすごい硬いものじゃないですか。実際は、すごい柔らかいものだって後々気付かされるんですけど。普通、人が硬いって思っているものを、色んな機械を使ってバリバリ削るのって面白いだろうなと。あとは手に職をつけた方がいいだろうっていうこともあって。」とのこと。



機械加工科 中林 亮太さん

機械加工科の概要

定員：年間25名

訓練期間：2年

入校対象者：おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：旋盤、フライス盤等による加工の基礎から、マシニングセンタ等各種NC機械による精密加工法やCAD/CAMまで幅広い加工技術を習得します。



板橋校  
プラスチック加工科

身近なプラスチック。実はすごい将来性がある。この技術を自分のものにして、顧客ニーズに応える、難しいしごとをしたい

プラスチック製品は、電子・電気・OA機器・自動車部品・日用品等あらゆる分野で使用されています。プラスチック加工科は、これらの製品を作るための射出成形機を主として、成形条件、成形法、材料、金型の分解・組立等の技能・技術を習得します。また、技能検定2級程度の知識と技能の習得も目標とする訓練です。

身近で、かつ可能性があるプラスチック

プラスチック加工科の板橋さんにお話を伺いました。

板橋さんの前職は小売業。その板橋さんがものづくりに関心を持ち、訓練を受けようと考えた理由は「小売業では技術がなかなか身に付かないので、手に職をつけたいと思い、製造業に興味を持ちました。ただ未経験では転職が難しく、自分にも自信が持てないので、入校しました。」とのこと。

そして、数あるものづくりの中でプラスチック加工を選択した理由は「プラスチックは私たちの身の回りで使われている技術であり、そういうものに携われるのは、本当にやりがいを感じられました。また、車など、軽量化を図るためプラスチックが使われるという流れもあり、プラスチック産業はこれから伸びる産業だと思いました。」



プラスチック加工科 板橋 秀展さん

と話してくれました。

小売業で培った経験を活用

一方で、小売業出身の板橋さん、エンドユーザー目線が養われているので、今後それが活かせるのではないかと聞いたところ、「やはりお客様が何を望んでいるのかも、製品づくりに活かしていきたい。」と答えてくれました。

また、小売業は年齢層が多様な職場であり、そうした場でのコミュニケーションにも長けているようです。「まず、絶対相手の言うことを否定しないようにしていました。プラスチック加工も、ニーズに応じて成形条件が違ってきますので、そういったところにも、多様性を尊重するという考え方が活かされていると思います。」とのこと。

プラスチック加工の魅力と自分の将来像

板橋さんに、プラスチック加工の魅力と自分の将来像について聞いてみたところ「プラスチック加工は製品を作る上で、自分で成形条件を入れる必要がある。自分で考えて作ったものが良い製品になるというのは非常にやりがいを感じます。」  
「精密機械などハイテクノロジー向けの製品など、寸法が非常に厳しい製品を作る仕事がしたいと思っております。そういった仕事をする事で、自分の力もつくと思います。」と、未来を見据えて語っていただきました。

プラスチック加工科の概要

定 員：年間50名

訓練期間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、10月（各月25名）

訓練概要：プラスチック製品を作るための射出成形機を主として、成形条件、成形法、材料、金型の分解・組立等の技能・技術を習得します。また、技能検定2級程度の知識と技能の習得も目標とする訓練です。

板橋校  
三次元CAD科

もう一度深く学び直したい、その思いで入校した。訓練は厳しい。ひたすら練習。そうすれば力が身に付く。

三次元CAD科では、三次元CADソフトはCATIA V5を使用し、工業製品の作成・組立、二次元図面変換、解析などの基本操作を中心として機械分野で必要とされる基礎的な知識・技能を習得する科目です。

もう一度深く学び直したい。

三次元CAD科の阿部さんにお話を伺いました。

通信業界で働いていたという阿部さん、機械産業など、ものづくりにはなくてはならないものですが、一般にはあまり知られていない三次元CAD、これを学ぼうと考えた理由を阿部さんは、「もともと機械系とかCADに興味を持っていて、大学の頃も少しだけ勉強したんですけど、広く浅くしか学んでこなかったんで、もう一度深く学び直したいと思って。」入校したそうです。

そういう阿部さんですが、それこそ機械のネジなど、細かい部品の設計を担う三次元CADは非常に緻密な世界、どうしても合う人、合わない人がいるものですが、「緻密な作業は、自分の中でも結構好きだったので、ここを選んだ。」とのこと。また「小さい頃から、プラモデルとか、ミニ四駆とかよく作ってましたね。」と、緻密なものを作り上げていく喜びを知っている阿部さんだからこその選択だったともいえそうです。



三次元CAD科 阿部 和茂さん

自動車関連部品の設計に関心

ものづくりに関心のある人でも、やりたいしごととして、設計段階と製造段階に大きく分かれるようです。三次元CAD科を選択した阿部さんは、設計段階の方に関心があるようですが、「就職して、いきなりはちょっと難しいかも知れないんですけど、ゆくゆくは設計の方に進めたらなと思います。」と至って謙虚です。

将来設計したいと思うものを聞いてみたところ、「現実的にだと、自動車関連の部品とかそういうところですかね。」とのこと。聞けば、自動車には「自分で乗ってるので少し興味があるかな。」と。訓練が進んでいく中で、自動車以外の分野にも関心が広がっていくのかも知れません。

ひたすら練習

今、阿部さんは「訓練についていくのにいっぱいいっぱいって感じですね(笑)」とのこと。「先生が丁寧に教えてくれてるんで助かってます。」「分からないことは席が近所の人に聞いたりとか、色々助けてもらってます。」といます。

もう一度深く学び直したいと入校した阿部さん、訓練にはやりがいを感しながらも懸命に頑張っています。最後に「ひたすら練習して、分からないことは質問して、そうすれば力が身に付くんじゃないかな。」と話してくれました。

三次元CAD科の概要

定 員：年間60名

訓練期間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、10月(各月30名)

訓練概要：三次元CADソフトはCATIA V5を使用し、工業製品の作成・組立、二次元図面変換、解析などの基本操作を中心として機械分野で必要とされる基礎的な知識・技能を習得する訓練です。



板橋校  
介護サービス科

介護が必要なお年寄りも、一緒にはたらく仲間もみんな人。互いに尊重し合い、みんなが笑顔になれる、そんな職員になりたい。

介護サービス科は、高齢者・障害者等を対象とする質の高い介護者の育成を目指し、必要とする技能・技術を習得する科目です。

介護職員としての心構えを学んだ。

介護サービス科の野本さんにお話を伺いました。

野本さんは、訓練修了まであと数日、この半年を振り返って、「正直大変でしたけど、達成感もありますし、仲間たちと一緒にやってこれたことを非常に誇りに思っております。」とのこと。

もともと野本さんは「生活費を稼ぐために介護施設で働いていたんですけど、働いていく中で、利用者さんと接していく中で、この仕事にやりがいを感じて、今後もこの仕事を続けていくために訓練を受けることにしました。」とのこと。

介護施設での経験がある野本さんが、訓練を経て得た一番の収穫とは、「技術の向上もありますが、どちらかというと心構えといいますか、利用者さんに対する接し方ですね。尊厳を守ることですとか、非常に学ぶことが出来ました。」とのこと。訓練の経験が介護職員としての野本さんをまた一步成長に導いたようです。

仲間のことを大切にしていきたい。

これからはたらく介護施設で、大切にしたいことについて、「利用者の方一人ひとりの心を大切にしていきたいと思っておりますし、ここで一緒に学んだ仲間がいたからこそ、修了できると思っておりますので、就職後も一緒に働く仲間のことも大切にしていきたいと思っております。」と野本さん。

そして、利用者、はたらく仲間いずれも大切にしていきたいためには、必要なことについては、「相手のことを尊重することが一番大切かと思っております。自分を押し付けるのではなく、相手を受け入れて

いくようにしたいと思っております。」と。野本さんにとって、利用者も、一緒に訓練した、あるいはこれから一緒にはたらく仲間、いずれも大切にしたい人なのです。



介護サービス科 野本 拓也さん

「野本さんがいて良かった」

野本さんに、これから目指す介護職員像について聞いてみると「利用者の方も、一緒に働く仲間のことも考えられるように、みんなが笑顔になれるような介護職員になりたい。」「自分自身がブレないで、常に前向きである姿勢を貫くことで、皆さんを引っ張っていけると思っております。」と、既に現場のリーダーとしての自覚も芽生えているようです。

最後に、介護職員として一番嬉しいことについて聞くと「『野本さんがいて良かった』って言われるのが一番嬉しいですかね。」と、真っ直ぐに答えてくれました。

介護サービス科の概要

定 員：年間60名

訓練期間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、7月、10月、1月（各月15名）

訓練概要：高齢者・障害者等を対象とする質の高い介護者の育成を目指し、必要とする技能・技術を習得する訓練です。

赤羽校  
電気工事科

毎日充実して訓練しています。クラスが仲間意識を強くもち、一つの目標に向かって進んでいる。電気工事の未来は明るい。

電灯・コンセントや動力の電気工事作業に従事するには、電気工事士の資格が必要です。電気工事科では、訓練を修了すると、第二種電気工事士免状が習得できます。電気工事士として必要な知識と技能を習得する訓練です。

電気が建物に生を与える。

電気工事科の合田さん、薬師寺さん、櫛島さんの3人にお話を伺いました。

3人とも入校前の経歴は異なりますが、共通しているのは、友人・知人に勧められて入校したこと。そして、毎日を充実して学んでいるということ、電気工事に対する誇りを持っているということ。合田さんは「土木工事や建築工事で建物は建つけど、それだけだとただの箱なんですよ。やっぱり電気ってものがないと、建物が機能しない、生を受けない。」と言います。

進む道はそれぞれ

同じ思いを持つ3人ですが、修了後に進む道はそれぞれ、合田さんは電気工事の施工管理の分野、櫛島さんは消防点検の分野に就職が決まっています。そして薬師寺さんは風力発電のメンテナンスのしごとを目指しています。



左 電気工事科 合田 紘基さん  
中 電気工事科 薬師寺 優さん  
右 電気工事科 櫛島 雅功さん

クラスは家族

それぞれ進む道は異なりますが、「仲間たちと一緒に同じ目標、電気工事業界に就職することを目標にしていますので、一人で頑張るより、何倍も楽しい生活を送らせていただいています。」と合田さん。「皆一つの目標に向かってこの訓練を受けているので、クラスのみんなは、友達というより、家族みたいな感じですね。」と櫛島さん。「ああ近いものはある、ということにしよう(笑)」と薬師寺さん。皆、仲間意識を強ち、楽しく訓練をしている雰囲気強く伝わってきました。

成長という宝物

ここでの訓練について、「間違いなくスキルが上がりますね。この前、第一種電気工事士の資格試験を受けて合格できて、今まで理系の勉強を一切してこなかった人間でも、それが出来るんだって感じる。それと作業スピードが上がったのはすごく感じますね。」と薬師寺さん。「他の科目も含めて、色んな人がここに来ていますが、そんな方々の経験とかを伺えて、それを知識として、自分の中に取り入れることで、成長できたって実感はありますね。」と合田さん。「毎日が新しい発見で、本当楽しいです。」と櫛島さん。

電気工事の業界は、人材確保が厳しい状況にありますが、こんな元気で前向きな若者が飛び込んで来てくれれば未来は明るいと感じました。

電気工事科の概要

定 員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：おおむね30歳以下で高卒程度の学力のある求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：訓練を修了すると、第二種電気工事士免状が習得できます。電気工事士として必要な知識と技能を習得する訓練です。



赤羽校  
環境空調サービス科

空調は誰もが必要とするもの。その基礎を短く、コンパクトに、必要なことを学べる。学ぶことだけに専念できる。

私たちが快適に生活するためには、空調設備や食品の冷凍・冷蔵は欠かすことができません。環境空調サービス科は、空調設備、冷凍・冷蔵設備の保守・メンテナンスに必要な知識と技術を習得する訓練です。

誰もが必要としている仕事

環境空調サービス科の橋本さんにお話を伺いました。

橋本さんは、高校生の頃からエアコンや空調関係の仕事に関心があり、担任の先生の勧めで入校したそうです。何故橋本さんは、空調の世界に関心を持ったのでしょうか。「やっぱり一年中使われている機械なので、それを自分の手で修理するのは多分楽しいだろうなって思っていました。」「家に帰った時、僕が最初につけるのはエアコンなんです。多分これから先も、誰もが必要としていくものなので、誰かが『必要だな』って思っていることに関係する仕事って楽しいと思うんですよね。」とのこと。

学ぶことだけに専念できる。

橋本さんはここでの訓練について「高校からそのまま就職すると、仕事しながら学ばないといけないんですけど、ここだと仕事などは気にせず、



環境空調サービス科 橋本 竜平さん

学ぶことだけに専念できて、取り組めるのがいいなと思います。」「仕事の基礎知識を、短くコンパクトに、必要なことをすぐ学べるいい場所であるなと僕は思います。」とのこと。

一方で、「専門の科目しかないなので、息抜きが出来ないのがちょっとしんどいなって思った時期がありました。」

とはいえ、橋本さんが訓練出来る期間もあと4か月、「今まで学んできたガス溶接であったり、エアコンの洗浄とかを、もっと上手にできるようにスキルを磨き上げていきたいなと思います。」と前向きに答えてくれました。

優しい風が吹く

環境空調サービス科で、橋本さんは最年少。

「最初、周りが年上の方々なので、色々心配はあったんですけど、周りの方が年齢に関係なく優しく接してくれています。人間関係はかなり充実してますね。」といます。

橋本さんは、穏やかな性格で、周りとは和やかにコミュニケーションをするのが好きだといいます。その雰囲気は今のクラスにはあるのでしょうか。就職先もそういった雰囲気の会社であれば、と希望しています。

寒い季節、暑い季節、エアコンは、人の気持ちを和やかにしてくれます。橋本さん自身と、彼が手掛けるエアコンが、人々に優しい風を送ってくれることでしょう。

環境空調サービス科の概要

定 員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：空調設備、冷凍・冷蔵設備の保守・メンテナンスに必要な知識と技術を習得する訓練です。

赤羽校  
測量設計科

どうすれば描けるのか分からなかった図面。いざ描いてみると褒められた。今、測量という新たな選択肢を手に入れた。

測量設計科は、測量の基本的内容から実践的技術、土木設計業務に従事していくための実務的技術を習得する訓練です。

全然畑違いのものがいい。

測量設計科の生徒さんにお話を伺いました。ご本人は、これまで販売・接客業を中心にごとをしてきたそうですが、何故、測量設計科の訓練を選択したのでしょうか。それについて、「これからのことを考えて、ありきたりに言えば『手に職をつけたい』っていうのがあって、ハローワークで話を聞いたり、自分でネットで調べたら、測量設計というものに気が付いて、どうせ職を変えるんだったら、全然畑が違うものがないと思って。」とのこと、また「土地家屋調査士という仕事に関心があって、その試験を受けるために、測量士補の資格を持っていると試験の一つが免除になるというのがあったので、だったら測量士補を取ろう、そのためにはここがいいかなと思って。」入校したそうです。

イメージと全然違う、しかし

こうして測量設計科の説明会に参加したのですが、「先生から『うちの科はこういうものを作ります』と言って見せてもらったのが、この校の



測量設計科の校庭での測量実習の様子

平面図、『これはどうやれば作れるのか全く分からない』と思いました。」といます。

それでも「一つひとつカリキュラムをこなしていくうちに、一つひとつ分かってきて、今は土台となる部分が見えてきたかな。」

興味深いエピソードをもう一つ、説明会で、「どうすればこういうものがつくれるのか?」と感じた平面図でしたが、これを作成する訓練のなかで、「それを描き終わった時、皆から『キレイだ』、『すごいうまく描けてるよ』とか言われて、嬉しかった。」とのこと。実は、本人も自覚していない隠れた才能があったのです。

広がり続ける選択肢

土地家屋調査士を目指して始めた訓練でしたが、「先生方から、測量士補の資格を取った後に道がものすごく色々あると伺って、今は自分の中で、土地家屋調査士というよりは、まず測量の仕事に就いて、その会社でさらにできることが見つければ、その他の方にも進んでいきたい。」と、この科での訓練で、新たな選択を手に入れたということなのでしょう。

最後に、「測量の仕事は、大変なところもあるんですが、何かを作る一番の基礎だと思うんですよ。」と話してくれました。測量は世の中の基礎であり、そこから街が作られていく、夢のあるしごとですね。と言うと、「そうですね。」と明るく答えてくれました。

測量設計科の概要

定員：20名

訓練期間：1年

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：測量の基本的内容から実践的技術、土木設計業務に従事していくための実務的技術を習得する訓練です。



赤羽校  
Web設計科

Webのしごとをしていた。漠然としか知らなかったことがハッキリ分かるようになった。パワーアップして原点に戻る。

Web設計科は、Web制作だけでなく、Web開発に必要な技術を習得する訓練です。Webサイトの構築における設計技法や情報デザインをはじめ、Webアプリケーションの開発に必要な開発技法を身に付けて、Web業界への就職を目指します。

分かっていく、理解できていく楽しさ

Web設計科の生徒さんにお話を伺いました。

ご本人は、もともとWebに関するしごとをしていたそうですが、「現場で使うために独学で得た知識しか持っておらず、もっとちゃんとWebのことを知った方がいいな、と思って応募しました。」とのこと。

こうして訓練が始まり、「前職で、言葉としては聞いていたものとかの仕組みが、どんどん分かっていく、ふんわりとしか知らなかったことをちゃんと細かく教えてもらって、こういう仕組みで動いていたんだなっていうことを理解できていくのは楽しいですね。」と訓練に手応えを感じている様子。

全体的・体系的に学べる

訓練を始めて8カ月、今感じていることは、「Web設計科は、ウェブサイトがどういう仕組みで動いているのかっていうのを全体的に体系立てて学べるので、個人的には、Webの仕事をしたことのない人でも、自分がどの分野が向いているのかを理解したうえで、就職することが出来るので、ふんわりとWebの仕事がしたいと思っている人たちに、お勧めできるなと考えております。」とのこと。

Webという広い世界の中で、一番根っこの部分を学べることは強いと言います。



Web設計科の訓練の様子

パワーアップして原点回帰

ここでの8カ月は、指導員のサポートや生徒同士の教え合いもあり、しっかり学んでいるとのこと。こうした訓練を経て、今、「Webは、見た目に関わる表の部分と仕組みを作る裏方の部分に大きく分かれていて、ここに来たばかりの時は、前職が表の部分だったこともあり、裏方の方がカッコいいと思っていたんですけど、8カ月間学んできて、見た目の方に関わるプログラミング、いわゆるHTMLの方が、個人的には向いているのかなと感じている。」そうです。

ここで学んだのち、前のしごとに近い部分に戻っていくということになるわけですが、訓練で基礎を学んだことによって、それは単なる原点回帰ではなく、パワーアップして戻ることを意味しているのでしょう。

Web設計科の概要

定員：年間30名

訓練期間：1年

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月

訓練概要：Web制作だけでなく、Web開発に必要な技術となる技術を習得する訓練です。Webサイト構築における設計技法や情報デザイン、Webアプリケーション開発に必要な開発技法を身に付ける訓練です。

赤羽校  
建築CAD科

建築CADを学ぶことの醍醐味は、図面上の線の意味を理解できること。ますます建築の世界に引き込まれていく。

建築CAD科は、建築製図に必要な学科、実技、基礎知識とCAD操作を学び、住宅の設計や建築関連の図面作成に関する知識と技能を習得する訓練です。

実際にこの目で見えていないものも、色々知識として学んできたので、これからは先生と一緒に実物を確認しながら、最終の課題に向けて取り組んでいく。」とのこと。「これからは楽しみ」だそうです。

建築好きですが、CADは難しい。

建築CAD科の生徒さんにお話を伺いました。

ご本人は、前職がインテリア関係のしごとをしていたそうです。「自分は、もともと建築に興味があったっていうのと、前職の時に、図面とか色々描けると役に立つなっていうのは、分かっていたので、両方を取ってちょうどいいかなと思って。」とのこと。

こうして訓練を始めたわけですが、「建築CADはやっぱり難しいですね。なんか全然知らない単語とかもいっぱいあったりとか、あとCAD自体も、ソフトも触れるのが初めてだったので、慣れてくればいいんでしょうけど、やっぱり難しいと思います。」

これからは楽しみ

これまでのところ、知識の習得が中心だった訓練ですが、これからは実地の訓練が始まるそうです。「今のところ、建築に関する用語や、実

これからの選択肢

訓練が始まって2カ月ですが、今後の就職については、「最初は設備メーカーとかを考えていたんですけど、この科が建築にかなり寄っているので、建築のことが面白いなと思ってきたので、設計事務所とかどうなんだろうとか、考えています。」とのこと。

他の訓練科目にも言えることですが、訓練を受ける中で、自分の選択肢が広がっていくことを感じる生徒さんが多いようです。

図面の線の意味

建築CADの醍醐味について、「ただ線を引くだけなら、CADオペレーターが出来るんですけど、ここでは図面上の線の意味をちゃんと教えてくれるので、それが分かってくると、図面の本当の意味が分かってくる。」といいます。図面上の線がただの線でなくなっていく、建築の本当の意味が分かっていく、ということなのでしょう。ますます建築の世界に引き込まれますね。と投げかけたら、「はい、建物の難しさ、大変さも分かってきます。」と答えてくれました。

建築CAD科の概要

定員：年間60名

訓練期間：6か月

入校対象者：現在、求職中又は転職を希望する方

入校時期：4月、10月（各月30名）

訓練概要：建築製図に必要な学科、実技、基礎知識とCAD操作を学び、住宅の設計や建築関連の図面作成に関する知識と技能を習得する訓練です。



建築CAD科の生徒作品



赤羽校  
電気設備保全科

一流の先生が初歩的なことから丁寧に、時間をたっぷり取って指導してくれます。頑張れば誰でも資格が取れます。

電気設備保全科では、電気の基礎から防災・防犯設備、空調・衛生設備などの建築付帯設備までを含めた建築物の総合的な保全作業と、各々の設備の配線施工や保守点検内容を、実習とともに学ぶことで、ビル管理に必要な知識と技能を幅広く習得できます。

丁寧に時間をかけて指導していただく。

電気設備保全科の小野寺さんにお話を伺いました。

小野寺さんは、「10年ほど電気の関係のしごとを経験させていただいて、ただその時に、第二種電気工事士の資格を取らなかったもので、この機会に取ってみよう。」と考えて、入校したそうです。

また、小野寺さんは「電気とは関係のない全くの他業種からであっても、ここでの学科、実技の授業は、一流どころの先生が揃っていますし、非常に初歩的なことから丁寧に、時間もたっぷり取って指導していただきますので、基礎がなくても、頑張れば誰でも資格が取れる、そういうふうになっていると思います。」と丁寧に説明していただきました。

非常に勉強しやすい。

クラスの様子をうかがうと、「似たような境遇



電気設備保全科 小野寺 秋博さん

の生徒さんが集まっていますし、先生方も非常にフレンドリーで、非常に安心して勉学に励むことができます。」とのこと。また「非常に皆さん、仲がよいです。年代が同じで、育ってきた環境も同じですので、非常に勉強しやすいです。」と語っていただきました。

試験対策も万全

この科目では、各種の資格取得を目標に訓練しています。小野寺さんは、「皆、資格試験の時期がずれておりますので、先に受験した人が後から受験する人にアドバイスするなど、うまい具合に勉強できています。」とのこと。

小野寺さんの言葉に充実した訓練生活を感じました。今後の活躍を期待しています。

電気設備保全科の概要

定 員：年間60名

訓練期間：6か月

入校対象者：おおむね50歳以上で求職中又は転職希望の方

入校時期：4月、10月（各月30名）

訓練概要：電気の基礎から防災・防犯設備、空調・衛生設備などの建築付帯設備までを含めた建築物の総合的な保全作業と、各々の設備の配線施工や保守点検内容を、実習とともに学ぶことで、ビル管理に必要な知識と技能を幅広く習得できます。

## あらためて、あなたは何故、『はたらく』のですか？

ここまで、中小企業14社の若手社員の方々、経営者(層)の方々に、お話を伺ってきました。

若手社員の方々は、それぞれの企業、職場でいきいきと働いていました。

### 自分の軸、誇り、責任

ある若手社員の方は、自分の軸をしっかり持ち、周りの社員とのコミュニケーションを円滑にして、協力し、新しいことに挑戦していました。

また、ある方は、自分のしごとに誇りを持ち、自分の考え方をしっかりと持って、これまでにないしごとに、自身の責任で取り組んでいました。



### 職場内のコミュニケーション

職場の雰囲気は和気あいあいで、分からないことは積極的に質問し、先輩社員はそれを快く受け止め、丁寧なアドバイスをしていました。

一人ひとりの顔が見える中小企業では、円滑なコミュニケーションが求められ、そのことを若手社員の方もよく心得ていて、工作中や休憩時間など、色々な話しをしていました。

### お客様との距離

お客様との距離が近いため、若手社員がお客様からの感謝の言葉「ありがとう」に感謝し、やりがいを感じ、一層しごとに取り組んでいました。

難しいお客様のオーダーに対しては、知恵を絞り対応し、お客様の信頼を得ていました。

### 経営者の努力、若手社員の育成

若手社員の方々がいきいきとはたらいっているその裏側には、経営者(層)の方々の並々ならない努力や工夫がありました。

ある経営者は、若手社員の性格や志向を理解し、その人が成長できるよう、指導役の社員を選ぶなどのしくみを整えていました。

ある経営者は、先輩との間で密接なコミュニケーションがとれるよう、交換ノートなど色々なしくみを整えていました。

また、ある経営者は、基本的に全て社員に任せ、出来限り自主性を重んじる方針で育成をしていました。

### 愛情のある経営

ある経営者は、病気になっても、入社拒否症になっても、一人ひとりの社員に寄り添い、その人が自ら活躍できるよう、温かいまなざしを注ぎながら経営に取り組んでいました。

ある経営者は、働きがいのある安全安心な場を社員に提供できれば嬉しいと、社内環境の整備に心を砕いていました。



このように、中小企業には多彩で魅力ある「はたらく」理由がたくさんあります。

あなたにとって、生活の糧を得るのと同じ位大切な理由は見つかりましたか？



## あらためて、あなたはなぜ、「職業訓練」するのですか？

ここまで、中央・城北職業能力開発センター、高年齢者校、板橋校、赤羽校が実施する24の訓練について、生徒の皆さんからお話を伺ってきました。

皆さん、しっかりと将来に向けた目標をもち、一所懸命に訓練に取り組んでいました。

### クラスの雰囲気

多くの生徒さんから、「クラスの雰囲気がいい」とのお話をいただきました。

どの生徒さんも皆、自分のスキルを磨いて就職に備えている同士であり、クラスのなかには、様々な年齢層、経歴の生徒がいますが、お互い協力し合いながら、和気あいあいと、切磋琢磨しながら訓練に取り組んでいることが分かりました。

また、分からないことは積極的に教え合い、教えてもらった生徒さんは、そのことに感謝しているというお話も多く聞かれました。



### 就職に対する様々な思い

職業訓練の場ですので、皆さん一所懸命に自分のスキルを磨いていましたが、一人ひとりの就職に対する思いは多彩でした。

よくお聞きしたのは「手に職をつけたい」というお話しでした。この思いは、ものづくり離れが著しいと言われている今、希望の光のように感じました。

ある生徒さんは、高校の時から同じ技術を学び、自分の腕をさらに磨いていました。

ある生徒さんは、前職に関する技能を一層深めるため入校し、懸命に努力していました。

ある生徒さんは訓練を通じて、これまで想像しなかった新しい可能性を切り開いていました。



### 自分の好きをしごとにする

よく耳にしたお話しとして、今取り組んでいる訓練が、子どもの頃から好きだったものと重なっているということがありました。

ある生徒さんは、子どもの頃から絵が好きで、それがしごとになればとの思いを実現しようとしていました。

子どもの頃から緻密なことが好きで、転職でそれを実現しようとする生徒さんもいました。



**このように、職業訓練には、様々な「自分を磨く」理由があります。**

**あなたにとって、職業訓練をする理由は見つかりましたか？**



## 最後に、あなたは何故、生きていくのですか？

ここまで中小企業で活躍する若手社員の姿や、職業訓練に一所懸命に取り組んでいる多くの生徒さんの姿を紹介してきました。

冒頭部分でお話ししたとおり、人が「はたらく」ということは、生活の糧を得ることと同じ位大切な別の理由があります。

あなたにとって、「生活の糧を得る」と同じ位大切な「はたらく」理由は見つかりましたか？



自分のやりがいを得るため、社会に貢献したいから、自分が成長したいから、色々な経験をしたいからなど、様々な「はたらく理由」があると思います。

今回、ご紹介した中小企業ではたらく若手社員の方々も皆さんが、「生活の糧を得る」とともに、それと同じくらい大切な理由を、それぞれ持っていました。

あなたは、どの人の思いに共感できましたか？

それとも、別の理由が見つかりましたか？



もし、ご自身の理由が見つかったら、出来るだけすぐに行動してください。

都内には、17か所のハローワークがあります。また、この冊子でご紹介した職業能力開発センターは都内に12か所あります。

飯田橋には「東京しごとセンター」もあり、多くのしごとを真剣に考えている方々が、相談やカウンセリング、セミナーなどで利用しています。



そして、今すぐ職業生活に飛び込むことに不安がある方、自分のスキルを磨いてからしごとがしたい方は、職業能力開発センター・各校で職業訓練を受けてください。どの職業能力開発センター・各校も、随時見学を受け付けています。

気になる訓練科目がありましたら、連絡をしてください。訓練をじかに見ることができます。

「はたらく」ことは、生きることです。

あなたの新たな一歩が輝かしいものになることを願っています。



## 都立中央・城北職業能力開発センター・各校、関係機関のご案内

訓練の内容や見学の申込など、以下の職業能力開発センター・各校にお気軽にお問合せください。また各ハローワークや「東京しごとセンター」では就職に関する相談、情報提供、各種セミナーなど「はたらく」ための様々な支援を行っていますので、是非ご利用ください。

### 中央・城北職業能力開発センター



文京区後楽 1-9-5 ☎ (5800) 2611

### 中央・城北職業能力開発センター 高年齢者校



千代田区飯田橋 3-10-3 ☎ (5211) 2340

### 中央・城北職業能力開発センター 板橋校



板橋区舟渡 2-2-1 ☎ (3966) 4131

### 中央・城北職業能力開発センター 赤羽校



北区西が丘 3-7-8 ☎ (3909) 8333

#### 中央・城北エリアの各ハローワーク

- ハローワーク飯田橋 (文京区後楽 1-9-20 03-3812-8609)
- ハローワーク飯田橋 U-35 (千代田区飯田橋 3-10-3 東京しごとセンター3階 03-5212-8609)
- ハローワーク新宿 (新宿区西新宿 1-6-1 新宿エルタワービル 23階 03-5325-9593)
- 新宿わかものハローワーク (新宿区西新宿 1-7-1 松岡セントラルビル 9階 03-5909-8609)
- ハローワーク池袋 (豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン 60 3F 03-5911-8609)
- ハローワーク王子 (北区王子 6-1-17 03-5390-8609)

東京しごとセンター (千代田区飯田橋 3-10-3 03-5211-1571)

### 中小企業で輝く 職業訓練で磨く

平成31年3月発行

登録番号(30)25

編集・発行 東京都立中央・城北職業能力開発センター

東京都文京区後楽一丁目9番5号

電話 03(5800)2611



「はたらく」ことは生きること。  
あなたが生活の糧を得ることと同じ位大切にしたい  
「はたらく」理由を見つけてください。

そして、多彩で魅力ある「はたらく」理由があり  
あなたが輝く場所として、中小企業に目を向けてください。

また、中小企業で「はたらく」ことで「輝く」ために、  
あなたを磨く場所として、職業訓練に目を向けてください。

あなたの勇気ある一歩が、輝く未来を創り出します。



平成31年3月

東京都立中央・城北職業能力開発センター  
高年齢者校・板橋校・赤羽校

